

薰風52号
創部80周年特集号

全日本学生ワンダーフォーゲル聯盟（四大学聯盟ワンデルング）



昭和15年10月27日 高松山頂上

浅間山を指差すWV班長



昭和15年11月1日 峰の茶屋



昭和14年9月 三八式歩兵銃を担いだ仲間
戦時体制下、必須科目の教練で習志野兵舎に
四泊五日で配属将校指導のもと、厳しい演習
に参加した。



大島義郎 寄せ書き日章旗
BN. 69 昭和16年商

春日井薰部長（当時41歳）とMWV卒業生



昭和16年12月繰り上げ卒業

リーダー養成 ゴキタ沢源頭



平成27年8月5日

北海道夏合宿 羅臼岳

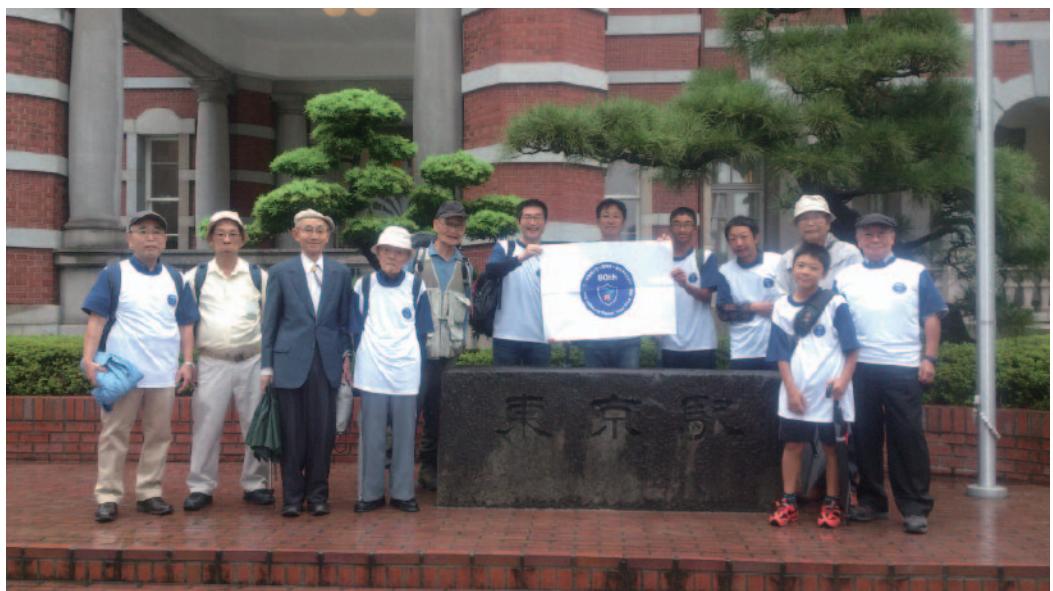


平成27年8/31～9/13

全国一斉「オールなため会」ワンデルング



N O. 1 谷川岳：群馬県



N O. 2 皇居周辺：東京都



N O. 3 高尾山：東京都



N O. 4 伊豆ヶ岳：埼玉県



N O. 5 秋田駒ヶ岳：秋田県



N O. 6 角田山：新潟県



N O. 7 鋸山：千葉県



N O. 9 矢倉岳：神奈川県 (MWV & なため会ジョイントW)



N O. 10 吉野ヶ里遺跡周辺：佐賀県



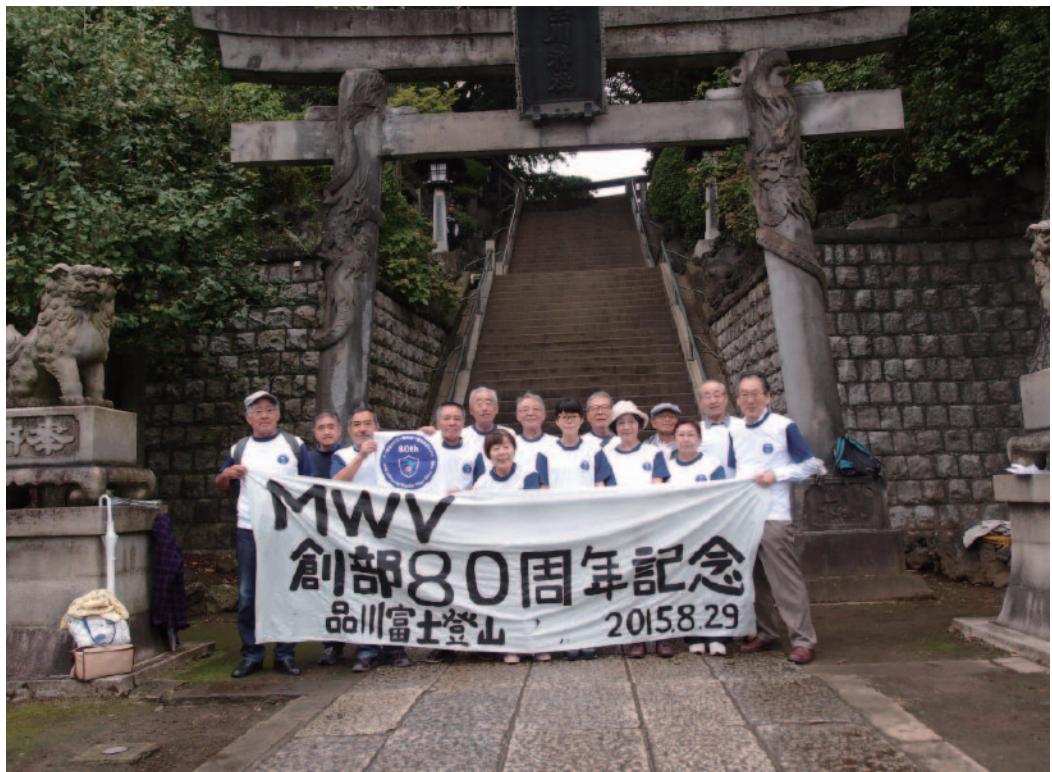
N O. 11 蒜山高原：岡山県



N O. 12 多良岳周辺：長崎県



N O. 13 草津温泉 芳ヶ平：群馬県



N O. 14 東海道品川宿：東京都



N O. 15 金峰山：山梨県

椎橋○Bの千週連続登山についての考察

山小屋の利用を希望する方へ

椎橋稔君千週連続登山おめでとう

天野 健明 三七

空色椎橋会長との最初の山行

前田 芳弘 三七

矢倉岳でインタビューしました

杉山 裕 三八

北アルプス～白馬・雪倉・朝日

小田野義之 三九

～高山植物の宝庫を巡る

山口 直樹 四〇

二〇一五年十一月 草津訪問記

長井 吾一 四一

WV三六会の近況報告

年 表

平成二十八年 なため会ワンデルング日程

BN
425BN
1017BN
775

編集後記

お詫び

四七

新執行部紹介

四二

平成28年度現役指導スタッフ紹介

四二

年間行事予定

四三

椎橋稔君千週連続登山おめでとう

天野 健明 三七

平成27年度卒業生歓送迎会のお知らせ

主務連絡先

四三

四三

四三

四三

計 報

四三

四三

四三

(一九三六年)に二・二六事件があり、ベルリン五輪の二百M平泳ぎで前畠秀子の優勝がありました。また東北地方は大凶作で、娘たちの身売りが激増した時代でした。この頃の平均寿命は、男性四四・八歳、女性四六・五歳でした。翌十二年には上海事変が勃発、次第に重苦しい時代へと進んでいったのです。そのような中でMWVは産声を上げた訳ですが、第二次世界大戦終盤の昭和十八年(一九四三年)には兵力不足を補うため、学徒出陣が始まりました。

我が明治大学体育会パンターナオーネル部が創部以来、80周年を迎えることができたことを心から喜ぶ次第です。

倉韶された時代の世相は、昭和十一年（一九三六年）に二・二六事件があり、ベルリン五輪の二百M平泳ぎで前畠秀子の優勝がありました。また東北地方は大凶作で、娘たちの身売りが激増した時代でした。この頃の平均寿命は、男性四四・八歳、女性四六・五歳でした。翌十二年には上海事変が勃発、次第に重苦しい時代へと進んでいったのです。

ら、より広く明日の大空に向かって羽ばたこうではないか！」とあります。

現在、連盟は機能していないようですが、私はこの連盟の仲間たちと今でも一緒に山に登つたり、酒を酌み交わしたりしています。仲間には元全日本学生ワンドーフォーゲル連

—加盟校かお互いに助け合い、より深く知識を学ぶ。最高学府に学ぶ学生として、行動と理論の伴ったワンドーフォーゲル運動を行つて戴ければ幸いです。ワンドーフォーゲル運動が、我が国において自然への憧れの気持ちを持つて國土を遍歴することによって始められてから三十余年、戦後益々若人の自然への憧れを反映して、次第に大きな運動へと発展し、世に浸透してきました。全国のワンドーラー よ！手に手を取つてお互いにかばい合いながら

「フォーゲル年鑑」一九六二—全日本学生ワンダーフォーゲル連盟—があります。この冊子は、全日本学生ワンダーフォーゲル連盟が出来て三年の歳月が過ぎ、加盟校が六十校となり第三号として発行されました。

盟委員長や各大学OB会の会長もいます。MWVの今年度の執行部は、主将・主務ともに女性ですが、K.W.V（慶應）やM.G.W.V（明学）も女性が主将だそうです。

ドイツのメルケル首相、韓国の朴槿恵大統領、ヒラリー・クリントン達も女性リーダーとして活躍し、女性の時代を痛感します。男子学生諸君！頑張つてください。

創部八十周年に思う

BN なため会会長 鈴木正彦
532 (昭和三十九年経営)

題字 廉隅 進
薰風52号
創部80周年特集号
明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報

ワンダーフォーゲル部

部長
長峰
章

パンダーラボリケル部は春日井薫先生は部の前身である「駿台あるこう会」を改組してパンダーラボリケル部を立ち上げて頂きました。最初の学生委員長を努め、後に初代監督に就任された三本鳴美氏の回顧録によると、創部当初から部の綱領とバッカル授与の制度が設けられ、部員数は23名であつたと記されています。

「ンターナオーレル部創部六十周年おめでとうございます。創部八十周年を迎えたのも、ひとえにWV部OB、OGの皆様の現役時代からの努力と協力の賜物と心から感謝申し上げます。また、この間にWV部の運営に携わってきた監督、コーチの方々にもこれまでのご尽力に対し御礼の言葉を述べさせていただきます。



題字 廉隅 進

W V部創設後の我がワンドーフォーゲル部の活躍ぶりは、皆様が良くご存知の事と思いますが、毎年発行されてきた部誌に残されている長きにわたる輝かしい活動歴を読ませて頂くと、明治大学のワンドーフォーゲル部は日本一のクラブであると断言できると思います。

私は二十年以上に渡りワンドーフォーゲル部の部長をさせて頂いており、夏合宿には毎年のように参加させて頂いています。部長冥利に尽きますが、北海道と九州での夏合宿には何度も参加させて頂き、四国、東北、北陸の地にも行かせて頂きました。部の綱領のようすに国土を遍歴して、美しき自然に親しむことを実践させて頂いています。

ワンドーフォーゲル部は今後創部九十周年、百周年を迎えることになると思います。W V部OB、OGの皆様にはW V部が今後ますます、すばらしいクラブになっていくように御協力の程よろしくお願いします。

私もワンドーフォーゲル部の未来に栄光あることを祈念させて頂きます。

創部八十周年にあたつて

監督 謙訪本充弘（昭和四十九年文）

私が入部したのが昭和四六年で、その時から数えて四四年。そうかクラブの半分以上の歴史を知っているんだ、と自画自賛したもの

の知っているのは現役時代の四年と最近の十年くらいで、その他のことはもっぱら城島紀夫先生の著書が頼りといういささか歴史には疎いあります。私が入部した当時はワンドーフォーゲルの知名度は良きにしろ悪しきにしろ、誰もが知っている存在だったと思われます。最近の入学生は知らないというのがほとんどで、なんとかいい意味で知つてもらおうとthoughtります。そのためには一人でも多くのワンドーラーを送り出すのが使命だとこころえております。

私たちのクラブは他の体育会のクラブとちがつて、競技部ではないので、評価は他の人々が見て、一見つらそうなことをいともあたりまえに和気藹藹としつかりしたりーダーのもとでやるというのが一つの目標だとおもいます。したがつて、私の指導方針はいたつて簡単で「あたりまえのことを、あたりまえにする」というものです、挨拶はしつかりとする。装備は丁寧に使う。部誌は期限までに発行する。合宿の記録はすみやかに提出する。天気図は放送が終わつたら十分以内に仕上げる。そしてなにより大切な経験を積み重ねるために積極的に企画を立て季節に応じたワンドーリングをする。

これらのことと明るく楽しくやつていつてほしいというのが一貫した方針です。

まだ道半ばですが、大学当局、OB諸兄のお力をかりながら、部長先生、コーチともども、執行部を叱咤激励してすこしずつでも思つていてます。

主将挨拶

主将 松田彩友美（四年部員 農）

今年度で明治大学ワンドーフォーゲル部（ワングル）は創部八十年となり明治大学の中でも歴史ある部活です。それだけではなく、多くの大学ワンドーフォーゲルの中でも最も歴史ある部活でもあります。ワングルは登山を行う部活ですが、山岳部とは異なり体力の限界への挑戦や未知の世界への探求はしません。では、何をしているのかというと登山を通して、当たり前なことである時間を守ること、他人を思いやること、協力することが出来るような部員を育てる部活だと思つていてます。これらが出来るようになることに加えて自然に親しみ、その良さをわかることが出来たならば立派なワングル部員なのだと思います。

そんな歴史ある部活で主将を務めることへの緊張を持つとともに、男子部員の多い部活で主将の私が女性であることに不安も感じています。けれども、主将とは自分自身の能力が優れているのが必須条件ではなく、周りのワングル関係者の協力をへてまとめていくことができる人でも務めていけると思っているので、そういうふた主将を目指していきたいと思つていてます。

いい方向にいきたいとおもつております。

現在、ワングルの活動は主に年間六回の合宿を二泊三日で行っています。そのうち、夏合宿では約二週間かけて遠く北海道、東北、四国、九州など日本各地で行っています。卒業された多くの先輩方の現役のころのワングルとは同じ部分もあり、異なる部分もあると思います。装備などは改良が進んでいて全く違うものとなっているものもあります。けれども、自然に親しみ、仲間と友好を深めるワングルの方は大きくは違わないのではないかでしようか。

最後になりましたが八十年という長い間に卒業されたたくさんの諸先輩方や監督・コーチ、関係する方々にはワングルがこれからも活動を続けていくために暖かく見守っていたいだきたいと思います。

私の手許に一丁の鉈が残っています。戦後間もない頃、尾瀬へ出かけての帰り鎌田の鍛冶屋で見つけて手に入れたものです。刃もとの厚みと言い刀先からのくびれた柄へかける角度と言い典型的な山刀で、それ以来私の山行に欠かせないものとなりました。桜の皮でとち合せた木のさやに赤石岳の焼印が残つて居るのは二八年夏の南アルプス縦走の折の記念です。少々刃こぼれはあるもの

の未だ鋭い光を失つて居ません。

その黒びかりした柄を握りしめて居ると若かつた頃の幾多の山行がほんの昨日の事の様に懐かしく思い出されます。その頃のワンドルングに鉈は必携品でした。誰のキスリングのタッシュにも鉈の柄がのぞいていたものであります。炊事用具として勿論でしたが、未だ山々は荒れ放題でしたし、気持ちの荒んだ物騒な連中が山へ入り込んでいましたから、それに見通の利かない深いヤブ漕ぎを強いられた時など、切れ味のよい鉈程頼りになるものはありませんでした。

一日中雨にたたかれて、夕暮れ近く辿りついた火の気のない山小屋で濡れ通つたヤッケや衣類を乾かす焚火を手早くおこすのにも鉈の切れ味がものを云いました。あの頃は今のように携帯に便利な折りたたみ傘や防水の良く利くビニールなどありませんでした。しかし苦労して起こした焚火に暖まりながら沁々とした語らい過ごす一刻は、大自然の荘厳な一刻、華麗な雲海の日の出にも劣らない、山でしか味はふ事の出来ない体験として何時までも胸にのこる貴重なものだと思つて居ます。山の中での生活で火を焚くことは最も重要な仕事でした。そのための鉈は最も大切な道具でした。そのための鉈は最も大切な道具神につながるものとして鉈目の歌が生まれたのでした。歌詞はごく自然にあるが儘を表現したもので、三十三年の部誌十四号に載つて居ます。私が参加した白山の夏季合宿のコンパで初めて独り歌つたのを憶えています。作符は正確には出来ませんが簡単なハ長調でギターによつて記譜したものです。其の後いろいろの歌集に掲載され専門の方々が正確なものに整理されて来ましたが、曲そのものは変わつて居りません。そもそも、私は部員だつた頃読んだ資料で二〇世紀初頭の独逸のワ

なために憶う

BN 197 小林 碧（昭和二十六年商）

ダーフォーゲル達がツブガイゲンハンスル（愛称ギター野郎）と呼ばれる歌集を育てて居た事を知り、少なからず興味を引かれて居ました。それで亡くられた木下部長が渡独された折、それを探し出して持ち帰る様御願いしていたのですが、先生が旅先で交通事故に遭われ病院生活が長引き、それどころでは無く帰国されてしまわれ大変残念に思つた事でした。私は常々ワンドーフォーゲルの歌集は自分たちの手で育てるべきだと言つて来ました。『鉛目の歌』に続いて『旅鳥』を翌年に作つて居ます。ワンドーフォーゲルにふさわしい、清新な若者らしい歌が後につづく事を期待してのことでしたが、未だにそれがかなえられないで居るのは寂しいことです。

（部歌 なため 作詞・作曲者）

明治大学から始まつた 学生ワンドーフォーゲル

城島紀夫

起源は明治大学

学生ワンドーフォーゲルの起源は、名実ともに明治大学体育会ワンドーフォーゲル部であります。WV部のOB諸氏は先刻ご承知のことと思いますが、八〇年の歴史を誇りあるものとして更なる伝統を積み重ねてゆくためのよすがとして、改めてその事実を明らかにしておき

たいと思います。

それぞれの詳しい内容については、文末に記した拙著『ワンドーフォーゲルのあゆみ』に書きましたので参考してください。

起源となつた事績の数々

一、「明治大学ワンドーフォーゲル部」には前身がありました。商学部の春日井薰助教授が始めた「駿台あるこう会」です。

一九二八（昭和三）年に同助教授が創設して、学生を集め毎週のように東京近郊の山などを歩き続けていた会です。

このように本を正せば、学生ワンドーフォーゲルの起源は駿台歩こう会にあり、この元祖は春日井薰氏だつたのです。

二、一九三六（昭和一一）年に、右の「駿台あるこう会」を母体として、「ワンドーフォーゲル部」が創部されたのです。学生委員長を置いて組織化し、他の運動部と同様に学友会に加盟し、部の綱領を掲げ部活動の目標を定めました。

これが、創部の起源となつています。春日井教授が部長として引き続き部の育成を続けられました。

同教授が英國留学中に学んだ自主・独立の精神は、戦前・戦中を通じて明治大学WV部の背骨となり、後継者たちがWV部の伝統を育んできたのです。

三、戦前の一九三五年にあつた立教大学WV部と慶應義塾WV部は、「勤労者（社会人）」

の歩行運動団体・奨健会ワンドーフォーゲル部の行事に参加していたYMCア学生会員が、奨健会の出口林次郎主事の指導を得て創部したものでした。両部共に文化団体に加入し、出口主事を顧問に迎えました。

四、この後に、明治大学出身であつた出口主事が春日井教授にWV部の設立を勧めたことが、駿台歩こう会を改名・改組した切っ掛けだつたのです。

しかし出口主事と春日井教授とは、理想とするところに大きな相違がありました。

勤労者の歩行運動を推進する運動家と、

エリートのスポーツ育成を目指す教育者との違いです。出口主事は、明治大学WV部の活動に関わることはありませんでした。五、太平洋戦争終結後の一九四六年に、明治大学WV部が最初に復活しました。春日井教授の督励による復活でした。

体育会への加盟を果たし、山岳部と並んで登山活動を行うスポーツの新しい種目と

してわが国で初めて公認されたのです。

この公認は、実力者であつた春日井商学部長の力添えによるものであつたと考えられます。

国立大学における体育会（運動会）への加盟は東京大学が先導しました。加盟は困難を極めたようですが、WV部長であつた大内力教授（後に東大副総長）の強力な支援があつたといわれています。

私立の明治大学と、国立の東京大学が先

例となつて後続の大学WV部は、スポーツの一種目として体育会に加盟することが通例となりました。

六、慶應義塾、立教、中央（体育会）とWV部の設立が続き、一九四八年に結成された全日本学生ワンドーフォーゲル連盟の委員長は、初代から三代目までを明治大学WV部が受け持ち、登山活動を主体とする学生ワンドーフォーゲル活動を主導したのです。四代目は中央大学が担当しました。

七、一九四九年に、新制大学において体育実技が必修化されることになりました。

最初に明治大学においてワンドーフォーゲル活動が体育実技の正式課目として認定され、WV部の関係者が学生の単位取得のための実技指導を担当しました。

八、ワンドーフォーゲルをユースホステル(YH)に吸収合併させるという案が、YH協会側から各校のWV連盟委員を通じて提議されました。一九五二年頃のことです。

春日井教授の大学の自主独立精神を反映した明治大学WV部の主導によって、この案は立ち消えになりました。

大学生たちが、政府が推進する青少年育成運動との間に明確な一線を画したものであり、連盟の中でも東京大学WV部は同様の精神のもとに反対の態度を表明しました。九、創部以来の春日井部長が主導を続けていた自主独立を中心とする理念は、連盟活動などを通じて全国大学のWV部に拡がつて

ゆきました。

春日井教授は、教育に国家権力が介入することを嫌つた英國の気風を身に付けており、青少年育成などの国の施策からは距離を置いていたのです。

明治大学WV部が私立大学ながらワンドーフォーゲル活動の主導的な立場にあつたのは、このような明確な理念に支えられた伝統を持っていたからだと考えられます。一〇、明治大学ワンドーフォーゲル部が独自の山小屋を建設したことは、登山史の上で

の快挙となりました。

創部から四年後の一九四〇年から建設基金積み立てが始められ、戦後の一九五四年に小屋が完成しました。

大学から約半額の建設資金の拠出を得て、完成と同時に大学に寄託したのです。

これが先例となつて、ほぼすべての学生WV部が山岳部とは別に山小屋を持つという歴史が作られたのです。

春日井教授のWV関係履歴

春日井教授が活躍した時代は、初めて私立大学として認可された各校が帝国大学に对抗する個性の確立に邁進していた時期でした。

春日井教授が卒業した当時は、明治大学商学科は一橋大学を中心とする官学出身の教授で占められており、母校出身のスタッフが一日も早く育つことが囁きされていました。

ワンドーフォーゲルの父・春日井教授
わが国における学生ワンドーフォーゲルの生みの親であり育ての親は、春日井教授（一九〇〇～一九八二）であります。

貨幣・金融論の研究者であり、私立大学が認可され始めた当時の私立振興に情熱を注いで、強い指導力のもとに母校発展のために実力を發揮した教育者でした。

併せて、四〇年間（一九〇六年）にわたつ

て明治大学WV部の育成にも情熱を注ぎ続けた功労者だつたのです。

先に挙げた事績の数々のほかに、明治大学WV部が始祖となつたWV活動は、夏期合宿、指導要綱、リーダー養成合宿、班別制度、四大合戦、コーチ制度などなどが挙げられる

と思います。

これらは、春日井教授の熏陶を受けた後続のOB諸氏が創始して育て上げたものが多く、明治大学WV部ならびに学生WVの伝統として受け継がれてきました。

木下勇部長、三本鳴美監督、鈴木善次郎監督たちが活躍した時期は、学生ワンドーフォーゲルが大発展を遂げた時代に当たります。

一九二〇年 私立・明治大学認可、校歌誕生
一九二一年 商科を卒業し講師、助教授
一九二三年（二十四歳）母校の選抜留学生として米国シカゴ大学大学院へ
翌年に英國ケンブリッジ大学に

一九二六年	入学
一九二七年	帰国して助教授 商業部に初の演習制度（ゼミ） を創設
一九二八年	（二九歳）商業部教授に駿台ある こう会を創設・主宰
一九二九年	ラグビー部長
一九三〇年	ゴルフ部長、 山岳部部長、駿台ある こう会を継続して主宰
一九三二年	（三三歳）山岳部部長、駿台ある こう会を継続して主宰
一九三六年	（三七歳）ワンドーフォーゲル部 を創設（駿台あるこう会を母体） して部長に
一九四九年	（五〇歳）商業部長 WV部部長を辞して顧問となる
一九六八年	（六九歳）明治大学大学院長 WV部顧問を退任

春日井教授は、英國のアマチュアリズムに根差すスポーツ精神の持ち主であり、母校のラグビー部やゴルフ部などの部長を務めて学生スポーツの振興に尽力されました。
英國留学中は、毎日曜日には欠かさずウォーキングに出掛けていたそうです。山岳部の部報に同教授の次のような文章があります。

「三河（現・豊田市）の田舎の、それも海抜やがて三千尺（約九〇〇メートル・筆者註）近い山の中で生まれて、其処で育つた私には平地の景色は凡て何となく間が抜けた物足らぬ」、「やつぱり神氣ひしひと迫る山中の生活がなつかしくてならぬ」という山国に生まれ育った日本人らしい伝統的な登山観です。

教授は、ワンドーフォーゲル部を創設することによって山岳部の分化をはかり、アルピニズムなどの先鋭的な登山を、日本の伝統的な登山に回帰させた功労者だったのです。

登山の分化を先導した春日井教授

戦前の旧制高等学校や旧制大学の山岳部は、古い時代には遠足部や旅行部として発足して登山活動をしていたのですが、一九二〇年代あたりに西欧から移入された雪と氷の山に挑戦する登山に憧れた一部の登山家たちが、「より高くより困難を」という思潮（アルピニズム）で学生山岳部や日本山岳会を染めていったのです。

学生山岳部の部員の中にはわが国古来の山に親しむ登山を望むものですが、山岳部から分化することはなかつたのです。

春日井教授などが念じていた通りの「山岳部に入らなくても好きな登山ができる」時代となり、山岳部が掲げ続けたアルピニズムという急進的な思想が衰退

春日井教授は、英國のアマチュアリズムに

してきたのです。

山岳部とは異なる登山クラブの生成発展を想定していた春日井教授の行動の数々が布石となって、学生ワンドーフォーゲル部は日本登山史の中に大きな足跡を残したのです。

期待されるOB会の活躍

WVは競技種目ではないために無目標になりやすいといわれています。今日では活動内容を多様化させたために部員の共通の目標が定まらなくなっているWV部が私立大学の中に多く見受けられます。

レジャーとして群れることだけを楽しむのでは、本来の課外活動としての教育的価値は無きに等しいのではないかでしょうか。

OB会が活躍している大学は、国立大学に多く見受けられるようです。

OB会組織がないために、活動の目標さえ定まらず迷走気味のWV部も多数見受けられます。

OB会が健在であれば登山技術の伝承も可能であり、部の伝統も継承されやすい筈です。

明治大学WV部OB会のような手厚い支援体制（新入会員受入、監督、コーチ、小屋合宿、部報の発行などなど）は、他大学WV部OB会の鑑であると思われます。

私は明治大学卒ですが、WVのOBではありません。この一〇年来、学生ワンドーフォーゲルの歴史を調べてきた者です。多くの母校WV部OB諸兄にも話を伺い、資料や情報を

頂戴したご縁で本文を執筆させていただきました。

また全国の多くの大学WWV部OB諸氏のご協力とご支援をいただいて、学生ワンダー・フォーゲルの歴史書を出版することができます。

末尾ながら 明治大学ワンドーラオーケル部 ならびにワンドーラオーケル部OB会が、これからも末永く活躍を続けられることを祈念いたしております。

昔を想い今への願い

BN
120
鈴木善次郎 (昭和十七年商)

昭和十七年の六月の初め、繰り上げ卒業となり、激化する戦争の為に内地へ大学生も疋

人となつてしまひました。先生が居れば、その想いでも、そのままにあつたのに、と先日写真帳を開き、淋しさがこみ上げて來ました。先生とは教室で、銀行論の講義を受ける時、微笑をもつて最前列の私を見てくれた事が印象に残ります。

明治大学体育会WWV部
『三十年のあゆみ』一九六六年
『六十年のあゆみ』一九九七年
春日井薰先生追想録『千紫万紅』一九八三年
城島紀夫『ワンドーフォーゲル活動のあゆみ』
古今書院 二〇一五年
(日本図書館協会選定図書)

主な参考文献

明治大学体育会WV部

三十年のあゆみ 一九六六年
『六二年のあゆみ』

春田井薰先生遺稿『千葉万葉』

城島紀夫『ワンドラリフオリゲル活動のあゆみ』

古今書院

(日本図書館協会選定図書)

著者紹介

城島紀夫（ジヨウジマ ノリオ）

田本山岳会会員 1993年佐賀県 明治大学卒

2005年より我が国

行く途中、八町温泉で、昼下がりに先生と一緒に入浴をしました。その後行つた沼沢沼は夜間二十万km³の揚水をして、昼間発電をなすもので、沼の水は深々とした色をなしています。当時の仲間では金井君も既になく、村上、竹沢両君の戦死と共に今、先生も他界し

白虎隊の墓前で撮つた写真をみれば四人故人となり、残る田伏、私、浅井、佐野、の四

た旅館が七星館で、あとから考へると、そこは二十九年十一月に落成した草津白根小屋（先生が名付け親）の地主の家だったとは因縁だと思います。そこにいた房子さんとう女中さん（一寸美人でした）、将来良いぞ、としきりにいわれたのが印象に残っています。昭和二十九年三月か四月に学校に行つたか呼ばれて先生に会つて、戦中連中と来宮の大寮に一緒に行こうといわれました。田伏、

た旅館が七星館で、あとから考へると、そこは二十九年十一月に落成した草津白根小屋（先生が名付け親）の地主の家だったとは因縁だと思います。そこにいた房子さんとう女中さん（一寸美人でした）、将来良いぞ、としきりにいわれたのが印象に残っています。昭和二十九年三月か四月に学校に行つたか呼ばれて先生に会つて、戦中連中と来宮の大寮に一緒に行こうといわれました。田伏、

若月、金子、日置諸氏と、その他一人か二人が同行しました。先生と一夜を過ごし、久しぶりに昔の話を聞かせてもらつたり、戦中の消息等も話してくれました。その時部活動に参加してくれる様に、とのお話がありました。

七月、夏合宿の日光光徳牧場へ参加して、戦後のワンダーフォーゲル部に初めて接しました。はからずも予科のドイツ語を教わつた木下先生が部長で、田伏君共々、予科の話をしました時、小屋が欲しいという話が出ました。雨が激しく降つた夜だつたと覚えています。翌朝、晴天で、合宿と別れて金精峠を越えて丸沼に行きました。メンバーは田伏、若月、林、私の四人でした。

丸沼の沼畔に空の牛小屋が建つているのを見た、昨夜の話が想い出され、小屋にしたらどうかということで四人の意見が一致しました。帰郷後、春日井先生宅に一同行つて、小屋を建てたいと訴えました。すると先生は激励ともとれる、建てるならやつてみろ、というようなことをおっしゃいました。その瞬間から、小屋建設に向かつて全力がそがれました。

勿論、先生の陰からの援助がありました。住所録の事、学内事情、現実のワンダーフォーゲルの活動状況です。田伏君と私は先頭に立つて小屋建設のアピールを行い、たくさん先輩後輩の援助を得て、十一月七日、落成式が行われました。先生は当時のお金としては破格の金額を一番先に出してくださいました。それは、私達への激励でした。

若月、金子、日置諸氏と、その他一人か二人が同行しました。先生と一夜を過ごし、久しぶりに昔の話を聞かせてもらつたり、戦中の消息等も話してくれました。その時部活動に参加してくれる様に、とのお話がありました。

七月、夏合宿の日光光徳牧場へ参加して、戦後のワンダーフォーゲル部に初めて接しました。はからずも予科のドイツ語を教わつた木下先生が部長で、田伏君共々、予科の話をしました時、小屋が欲しいという話が出ました。雨が激しく降つた夜だつたと覚えています。翌朝、晴天で、合宿と別れて金精峠を越えて丸沼に行きました。メンバーは田伏、若月、林、私の四人でした。

丸沼の沼畔に空の牛小屋が建つているのを見た、昨夜の話が想い出され、小屋にしたらどうかということで四人の意見が一致しました。帰郷後、春日井先生宅に一同行つて、小屋を建てたいと訴えました。すると先生は激励ともとれる、建てるならやつてみろ、というようなことをおっしゃいました。その瞬間から、小屋建設に向かつて全力がそがれました。

勿論、先生の陰からの援助がありました。住所録の事、学内事情、現実のワンダーフォーゲルの活動状況です。田伏君と私は先頭に立つて小屋建設のアピールを行い、たくさん先輩後輩の援助を得て、十一月七日、落成式が行われました。先生は当時のお金としては破格の金額を一番先に出してくださいました。それは、私達への激励でした。

また私が監督となつてから、時には総会にいらつしやり、時間を守れと怒られた事もあります。部の活動に、本当に関心を示し、陰に歩んだ数々の事が想い出されます。草津の山小屋の成立に對して眞実を知つてゐる先生が一番多く寄付してくれた山小屋建設資金を知らないで、昨年、大学の要職にあらは、大学が建てたといつていました。

私は、先生の人となりと歴史を知つてもらひ、部の發展に尽くす事が、今、一つの大きな目的と想ひます。

私は、先生の人となりと歴史を知つてもらひ、部の發展に尽くす事が、今、一つの大きな目的と想ひます。

(春日井薰先生追想録 千紫万紅より)

戦中・戦後のWV

BN 181 新村貞男 (昭和二十三年政経)

昨今、いろいろな戦争中の体験記が出て来ております。我が部にも戦争中の経過を記録しておいて良いのではないか。幸か不幸か私は一九四三(昭和十八年)春に入部し一九四八(昭和二十三年)に卒業しており、此の点の記録に適任と思い、筆を執らせてもらいました。十五年戦争の末期は、時局遂行の為、合同合併が盛んに流行しまして、大学も

合併せよという空氣もありました。そんな中で部も寄せ集めまとめられる訳で、我がWV、山岳、ボイイスカウトが合併して行軍山岳部とされました。中国大陸での戦争では、機械化はまだまだで、馬は、おえらいさんのもの、庶民の兵は大陸を歩くのが原則。だから歩行力を強める事が戦力増強となり、「歩け歩け運動」が奨励されました。山岳戦も想定され、時局にあつたクラブでした。そんな中で私達も山に行けたわけです。ただ戦局が厳しいから交通鉄道(車での山行等あり得ない)も今Eデン迄内しか切符は自由に買えない。(中央線なら高尾まで)バスは木炭車で回数も少なく、急な登り坂は降りて押し上げた。靴も軍靴があれば上々ですが、一般には入手出来ず、私は専ら草履だった。雨具は黄色の油紙。ランプはローソク。でも婆婆に居られる内はいいが、例の昭和十八年十二月の学徒出陣であらましの先輩はいなくなり、部も有名無実となる。負戦近くなるとザックで山里を歩いていると買い出しと思われて巡査に調べられました。駿河台本館は参謀本部に占拠されました。(お陰で戦後陸測の五万図が散乱して入ってきたのは幸)この校舎はギリギリの処で焼け残つたので、我が部のあつた部室(本館西側端)四階からは、神田神保町方面の焼け野原が一望できた。そして運よく戦場から生き延びて復員して来た先輩(昭和十六年入学、昭和二十一年卒を主体とした方々で卒業しても就職難で苦労した)がボチボチ集

まつて來た。行軍山岳部は自然消滅。「WV」は獨のヒットラーの後裔とGHQから睨まれそーなので、健歩部と変名。教室の黒板の端に新人募集をした。(掲示板はボスターもなく一番手頃な方法)喰うものない時だから、容易には集まらず、部の再建は容易ではなかつた。でも復員の先輩等と共に二十人位になつただろーか。昭和二十一年になつて「体育部は体育館の地下の長屋に集まれ」という事で、山岳部の下、音楽部のあつた長屋の端の狭いところに転居した。今までは体育会に所属していなかつたので、此處で初めて体育会に所属する訳である。所が予算審議で山岳部と合併しろと云われ、違つんだと力説(山岳は山を征服、ヒマラヤを目指す。我々は自然を愛し、融けこむんだと)して何とか危機を乗り切つた。

生活物資が何もない時代だつたが、山への熱情はそれだけ深く、夏休み等長期山行には、買い物出しの日を一両日位入れてから入山した。(当時、山岳部の主将助川さんの弟さんが鳥帽子岳登山口の濁小屋で(現在は高瀬湖の底)ザックの荷を狙われて殺害された事件があつた)昭和二二年に部室が地下長屋の中央部一階の広い部屋に転居出来た。空手部の居た処でこの引越は恐ろしかつた。なぜつて、剣道も柔道もSTOPされていて、空手がGHQから許されて当時一番権力を持つていた。こわいお兄さんが揃つていた。(空けわたしを拒まれた)。WVは渡り鳥だから定着合宿は

向かないと云つて専ら放浪の旅を主体とした。昭和二四年になつて大橋OBの主導で女子部員が入る様になつた。(深川の阿部アキB N二二一 神保町の田中治子BN二二二)慶応、立教のWVとの連合やら、GHQからの呼び出し等がある。(ここから辺りから城島紀夫さんのWVの歴史に明細あり)

学制改革での新制大学で、体育が必修科目となり、体育部に居れば実技・正課が免除されるので我が部は容易なので、登山ブームも加わり爾後部員数は激増する事になつた。

春日井先生から、

教えて頂いた事

(学生時代前後の私の思い出)

BN 301 小宮盛治(昭和三十一年商)

私にとつては、先生の著書「景気変動」を祝いの品として拝受できた事で、金融を勉強する再出発の機会を得るチャンスが出来ました。春日井先生が指摘された「体力が無い」と云う事は、たぶんめざす目的を疎かにすれば、東大生に負ける事を諭されたのでしよう。又、春日井先生のお好きだつた「MWVマーチ」は、「アリヤリヤ・コリヤリヤ」の合いの手の不思議と、明治大学は、「日本の超一流大学ではない」との学生へのメッセージと先生の心に秘めた祖国愛が、この歌詞には、表現されている様に、今は、理解しております。

一九五〇年代、高校生の私は、東京六大学野球をラジオで聞き、明治大学に進学しました。和泉校舎では、教養課程で、学長職の春日井先生の経済学を選択。ゴルフ焼けした先生の授業での思い出は、『ベンベン草騒動』です。概略は、川崎製鉄(JFE)の設備投資を、一万田日銀総裁が認めなかつた裏話を、ゴルフ場で入手出来た「情報入手の重要性」を、ユーモラスに語つた話です。(人・物・金情報)。更に、明大生は「物の見方、考え方」は東大生と同じだが、残念なことに、体力が無いと指摘、ワングル入部を推奨して下さい

結語

『金融と人間関係』を、私の人生のテーマにして、高齢者の輝く社会をめざして。

「オールなため会」ワンデルング参加者一覧

No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5		No. 6			
地域	8/29 谷川岳 群馬県 東京都		8/29 皇居周辺 (天守台跡：標高30m)		8/29 高尾山 (599m) 東京都		8/29 秩父 (伊豆ヶ岳) 埼玉県		8/29 秋田駒ヶ岳 秋田県		8/29 角田山 新潟県		
企画者	859	丸山 貞二	1115	上原 誠	795	濱田 稔	Aコース	788	原田 博文	898	小林 香織	1157	浦部 頼之
	448	相良 幾代	157	中村 輝雄	392	内田 吉成	Bコース	527	池田 陽一	563	岸 恵智子	1065	斎藤 宏
		相良 忠一	181	新村 貞男	393	植木 正子	Bコース	543	井出 健一	570	一色 雅男	1153	山田 立
	505	椎橋 稔	228	島林 順三	395	中山 光史	Bコース	558	奥倉 勇一	715	小林 雪夫	1172	浦部 香織
	661	大賀 徹雄	339	足立 康弘	398	小林 伸行	Bコース	775	小田野義之	717	住田 孔一	小3	浦部 哲平
	683	横手 一男	343	佐藤 政弘	406	刈谷 恒雄	Bコース	778	宮澤 邦雄	780	渡部 彰悦		
	705	杉山 裕	345	吉田 修	451	山田 祥二	Bコース	783	奥富 孝夫	792	柳川 俊泰		
	710	関川 正博	361	吉川 利和	455	飯村 朋圀	Aコース	785	小川 公平	826	村木 隆		
	728	横尾 廣志	1146	堀江 典昭	615	川井 武子	Bコース				本間 渡		
	838	龍 君江	1154	島村 明弘	719	鈴木 幸代	Aコース						
	888	関口 健二	中1	島村 元	751	諏訪本充弘	Aコース						
	2120	鈴木 元典	小5	島村 匠	小1	鈴木 律子	Aコース						
人 数	12名		12名		12名		8名		9名		5名		
備 考	※雨天のため、全員 一般コースに変更		※Aコース 5名 Bコース 7名										

No. 7		No. 8		No. 9		No. 10		No. 11		No. 12			
地域	8/29 鋸山 (標高330m) 千葉県		8/29 鈴鹿山脈・御在所岳 三重県		10/24 矢倉岳：神奈川県 (MWV &なため会 ジョイントW)		9/12・13 吉野ヶ里遺跡周辺 佐賀県		8/29 蒜山高原 岡山県		8/29・30 多良岳 (983m) 周辺 長崎県		
企画者	871	平田 正博	1120	天野 敏之	学生	永田 真帆		1022	高取 克好	860	谷脇 嘉徳	1180	出浦 裕二
						由水 雅也						1186	寺田 征史
	299	大内 善一	438	伊藤 新吾				268	浜田 和正	318	國東 照正		
	301	小宮 盛治	477	天野 健明				520	鷺津 博昭	363	鈴木 光敬		
	858	遠山 高広	612	山内 利人				658	江口 基雄	405	洲脇 泰雄		
			682	森田 峰彦				794	光浦 毅	471	小川 泰助		
			753	小松 宏之				810	村山 孝	797	田村 清己		
			906	石田 猛				917	繁谷 浩	807	河上 和正		
								937	野中 成浩	804	西村 佐一		
								1005	原 宏	830	丸山 賢司		
								1014	松尾 洋一	871	平田 正博		
								1035	兼廣 克巳	909	谷 浩明		
					学生	32名		1039	佐々木 隆	929	杉田 勝彦		
					O B	19名				986	石原 健		
人 数	4名		7名		51名		12名		14名		2名		

No. 13		No. 14		No. 15		
地域	9/8・9 草津温泉・芳ヶ平 群馬県		8/29 東海道品川宿 東京		8/29 金峰山 山梨県	
企画者	598	長唄 栄喜	625	菅野 隆夫	897	山下 仁志
	594	秋元 道別	483	羽部 隆	886	佐藤伊津英
	597	大洞 聰	484	中田 弘	890	田邊 強
	599	清水 邦彦	487	鈴木 康弘	892	永井 正道
	601	池上 勝彦	490	長島 圭好	894	藤原 雅志
	612	山内 利人	494	木島 敏夫		
	615	川井 武子	501	前田 芳弘		
		長唄 直子	504	平山 孝		
			506	西村 偕子		
			507	笹治 禮子		
			513	山本 務		
			764	高橋 寿子		
			835	猪狩 稔		
			3年	神内 亜美		
人 数	8名		14名		5名	

合計 175 名

全国一斉「オールなため会」 ワンデルング

BN 795 濱田 稔（昭和五十一年商）

台風一七・一八号による記録的被害が栃木・茨木を中心に発生しており、土砂崩れ、洪水による悲惨な状況が報じられています。災害にあられた方、OBの方にお見舞い申し上げます。

その十日ほど前の八月二十九日を中心に全国一斉「オールなため会」ワンデルングが行われました。事務局には十五地域の企画書が提出されおよそ一二〇名の方が参加されました。秋田駒ヶ岳は、雨も降らず時々晴天だったようですが、雨に降られたところが大方のようでした。九月八、九日実施の芳が平では、激しい雨で計画変更があつたそうです。どのワンドルングも晴天には恵まれなかつたようですが、私はこれこそMWVにふさわしく、こんな天気で良かったと思って今つてています。

“雨にもめげずひるまずMWV「前へ！」”との天からのメッセージと受け止めています。また、MWV創設者で初代部長の春日井薰先生は、最悪の事態を想定して行動しようと指導されていましたと伺つております。

この企画でいろいろ感じたことを書きたいと思います。その前に、この企画に快諾された企画者の皆様には、ご好意に甘え勝手なお願いばかりして大変ご迷惑をおかけしました。

それにもかかわらずご尽力をいただきました。この場をお借りして、感謝とお礼を申し上げます。

このワンデルングには一二〇名が参加されました。最高齢は皇居周辺ワンデルングのBNo.一五七中村輝雄先輩、御年九三歳です。最年少は高尾山ワンデルング参加のBNo.七一九鈴木幸代OGのお孫さん小一の律子ちゃん六歳です。また、新潟角田山ワンデルングのBNo.一一五七浦部頼之さんは、奥さんのBNo.一一七二浦部香織さんと小三の哲平君のファミリーで参加されました。皇居周辺ワンデルングのBNo.一一五四島村明弘さんは中の元君、小五の巧君と一緒に参加です。幅広い世代の、なため会員と“関係者”が、参加され大いに盛り上げてくれました。参加者の平均年齢は、およそ六五歳でした。

年代ごとでは、手白山荘建設に携わった代の会員が多く、その次が昭和五〇年代前半の代でした。その代には、辰巳午の会とか海千山千会や華の三七の会、情断会、郷路会のように同期会に名前が付いているのは、偶然でしょうか。ちなみにこの代が参加者ベスト五です。しかし、昭和三三年度卒から平成元年度卒までほとんどの代の会員が参加されたことは、特筆すべきことだと思います。また、平成五年度から九年度までの会員も参加され、OBとBNo.一一八〇出浦裕二OBとBNo.一一八六寺田征史OBは、長崎県多良岳（九八三M）ワンデルングの企画をさ

れました。両OBは、今回の参加者会員の最年少で四〇歳です。

いろいろな事情で参加されなかつたOB・OGも多数いらっしゃいました。

私の参加した高尾山は、三ツ星レストランで名を馳せた人気の山ではありますが、なため会同様、様々な顔を持つた「名山」です。高尾山は自然の豊かな山で、昆虫や植物の宝庫であります。昆虫の種類は、五六千種に及ぶそうです。また、低山にもかかわらず1300種余りの植物が分布しており、日本全国に生育する植物の四分の一に当たり、日本で最も植物の種類の多い山です。そのほか、日本から台湾、東南アジアを飛翔する蝶「アサギマダラ」が観察される山。冬至の頃、「ダイヤモンド富士」が見られる山。12月から1月にかけてみられるシモバシラ（氷華）等々どの季節に訪れても楽しめる山です。

この名山で行われたワンデルングは、昭和三五年度卒BNo.三九五中山光史先輩に奔走していたとき、中山先輩前後の代の方が多く参加されました。また、初参加のOB・OG、お孫さんを連れての参加者があつたりして、十二名が清滝コースとケーブルを利用した吊り橋コースに別れて登りました。清滝コースは傘もさすほどでもなく、涼しく人も少なく、自然を満喫できた快適なワンデルングを楽しむことができました。山頂で待つこと十分。やつてきました吊り橋コースのメンバー。ど

の顔も輝いていました。

山田祥二先輩がどこから調達してきたのかお手製の「八〇」のウチワを両手に掲げ、記念旗をかざし山頂での記念撮影「カシャッ」。周囲には何事があつたのかと驚きと好奇で見つめる二〇〇個の眼。薬王院に参拝し、とても初対面同士とは思えないほど和気あいあいと下山。ワンデルングの後の懇親会も、各代の話題やいろいろな話題が飛び交い華が咲き、名山に「恥じない」素晴らしい、楽しいものでした。

NO.一 谷川岳・群馬県

BN 888 関口健一（昭和五十六年農）

二〇一五年八月二十九日（土）雨

実働時間 四時間二十五分
天神平／熊穴沢避難小屋／谷川岳肩の小屋／
谷川岳トマノ耳／谷川岳オキノ耳／コース戻
る／天神平

BNBNBNBNBN
888838710683505448
BNBNBNBNBN
2120859728705661
BNBNBNBNBN
丸山貞二
鈴木元典
参加者
相良幾代
椎橋 稔
横手一男
関川正博
龍君江
関口健二

山田祥二先輩がどこから調達してきたのかお手製の「八〇」のウチワを両手に掲げ、記念旗をかざし山頂での記念撮影「カシャッ」。周囲には何事があつたのかと驚きと好奇で見つめる二〇〇個の眼。薬王院に参拝し、とても初対面同士とは思えないほど和気あいあいと下山。ワンデルングの後の懇親会も、各代の話題やいろいろな話題が飛び交い華が咲き、名山に「恥じない」素晴らしい、楽しいものでした。

「お早うございます」

いつもの『?』って思われそうな服装なのだがバッカルナンバーって本当に便利。それだけでグッと近くなるし身元確認の必要もなくなる。

しばらく話して「すみません、お名前は?」

「横手です」

えつ? 横手さんBN六八三横手一男つてもつとふつくらしてた記憶が…。あれやこれやで新幹線到着。車内はちゃんとグループが出来ていて♪大型バスにいー乗つてます。切符を順に回すので、ハイッ! お隣りへ♪てな気分。谷川岳ロープウェイ土合口へ着くも残念ながらの雨なので「全員ロープウェイコース」に予定変更。天神平駅まで十五分間の空の旅。

ゴンドラの中は

「昔、天神平から土合口までこのロープウェイの下を直滑降で滑つて降りた」
「新潟行つたら雪が無かつたのでそのまま北海道行つて滑つてきた」
などのUnbelievable アンビリーバボーな話がボンボン。

天狗の留まり場一六七〇M。夜明け前に解

大宮駅ホームにオーラを放ちながら新幹線を待つ人あり。火傷しそうなので遠巻きに少しづつ近付いて行くと腕に「M W V」の刺繡。

どなたか分からぬが兎に角挨拶。

「お早うございます。八八八番関口と申します」

「お早うございます」

いつもの『?』って思われそうな服装なのだがバッカルナンバーって本当に便利。それだけでグッと近くなるし身元確認の必要もなくなる。

しばらく話して「すみません、お名前は?」

「横手です」

えつ? 横手さんBN六八三横手一男つてもつとふつくらしてた記憶が…。あれやこれやで新幹線到着。車内はちゃんとグループが出来ていて♪大型バスにいー乗つてます。切符を順に回すので、ハイッ! お隣りへ♪てな気分。谷川岳ロープウェイ土合口へ着くも残念ながらの雨なので「全員ロープウェイコース」に予定変更。天神平駅まで十五分間の空の旅。

ゴンドラの中は

「昔、天神平から土合口までこのロープウェイの下を直滑降で滑つて降りた」
「新潟行つたら雪が無かつたのでそのまま北海道行つて滑つてきた」
などのUnbelievable アンビリーバボーな話がボンボン。

天狗の留まり場一六七〇M。夜明け前に解

散するらしく一羽も居ない。

天神ザンゲ岩一八三〇M。道標の文字を見て皆息を呑むが、懺悔した者は誰もいなかつた。

ここで相良さんBN四四八のザックから

大きいタッパにギッシリ詰まつた梨が出現。梨つて水に沈むの知つてます? そう、水より重いのです。

『こんな重い物を…。海より深く、空より高い母の愛か…』

美味しい梨で、いろんな事を考えて、夜久し振りに母親に電話しました。

谷川岳肩の小屋一九一〇Mランチ。多少風はあるが雨は降らず。谷川岳の天候は難しい。

谷川岳トマノ耳、オキノ耳。

オキノ耳にて、茂倉岳（四大合W）で亡くなつた堀井さんへ黙祷。

相良さん、ご夫婦で一緒に山とは羨ましい。

うちなんか「絶対無理」だそうです。

御主人は誰もが知つてゐる強豪校の元野球部員で、甲子園出場も決まつていてが不祥事で出場辞退になつたそうです。リハビリを兼ねて夫婦で山を再開されたとの事。

無事十五時二二分天神平に帰還。丸山さん、

凄いわあー。コースタイム企画書通りですよ。

現役時に登つたはずだが記憶無し。でも地図見て感じるほど楽なコースじゃないね。

十六時四五一十八時四五分さて場所を移して天狗の懺悔大会。もとい、渡り鳥の懇親会。

「単身生活、楽しくて楽しくて」と懺悔し

たら、「もうしばらくしたら、『恋しくて恋しくて』になるから」と諸先輩方は口を揃えて仰るのでした。「……」なんとも楽しい旅でございました。また御一緒しましょう。

(文責 関口)

N.O. 二 皇居周辺・東京都

(天守台跡 標高三十M)

BN 1115 上原 誠 (平成五年政経)

八十周年記念事業の一環として全国一斉ワンドルングのアイデアが出たなかで、登山は無理だけどOB会の企画に参加したい方もいるであろうし、なるべく多くのOBに参加して貰おうとの趣旨のもと、東京都心のコースも設定することになった。というものの、さすがにOB会の企画である以上、歩いてどこかに登らねば示しがつかない、とのことで、東京のど真ん中の皇居の天守台跡(標高約三十M)をピーカーに設定し、東京駅をスタートに、皇居を経て、駿河台のわからが母校まで歩くコースを設定した。企画者としては、なかなか参加者が集まるのか不安なところであつたが、結果として大先輩のOBが多数参加してくれり、とても賑やかな一日となつた。

参加者は、以下のとおり(敬称略)。

一五七中村輝雄、一八一新村貞男、二二八島林順三、三三九足立康弘、三四三佐藤政弘、三四五吉田修、三六一吉川利和、一一一五上

原誠、一一四六堀江典昭、一一五四島村明弘、島村元(長男・中一)、島村匠(次男・小五)。バックルナンバーが一〇〇〇番に亘るとしても幅の広い参加者が集まつた。そして、最年長の中村OBは御年九十三歳、最年少の島村OBの子供との年齢差はちょうど八十歳。MWVが歩んできた、八十年の年月の長さを思わずにはいられなかつた。島村OBの子供が中村OBの年齢になるさらなる八十年後に、日本は世界は明治大学はMWVはどうなつているのか……などと考えてしまう顔ぶれであった。

コースは、東京駅を起点に、皇居天守台跡を目指し、その後は、駿河台の本校まで歩く予定である。当日は、駅舎が新しくなつた東京駅の前で記念写真を撮つてスタート。日本の金融経済の中心地として高層ビルが林立する丸の内を抜けると、お堀端に出て江戸時代の城門の遺構を残す大手門をくぐつて皇居に入場することになる。ちなみに入場料は無料で、月曜・金曜を除き基本的に毎日公開されている。敷地内は広大で、江戸時代の役人が詰めていた百人番所・同心番所といった検問所跡や、庭園・雑木林と言つた自然豊かな散策場所が広がつてゐる。木々の背景には超近代的な高層ビルが迫り、独特的の景観が楽しめ。目指す天守台跡は、そもそも高台にあり、戦時中の話など貴重なお話を聞いて頂いた。また、吉田OBからは、草津小屋や新入部員が二〇〇名もいた当時の話などをお聞きした。

一方で若手OBからは、平成時代のワングル話などをして、その移り変わりに大いに盛り上がつた。大先輩のOBの方々は、なかなか

している。高台に出ると、現在は芝生の広場になつてゐるが、そこは江戸城の中心部本丸跡で、往時は松の廊下やら大奥などがあつた場所である。最奥部に目指す天守台跡があり、現在は、石垣の土台が高さ十メートルほど残るのみである。上部は展望台になつており、やはり皇居の木々の緑と背後の高層ビルが不思議な調和を見せ、魅力的な景観を楽しませてくれる。ある時代のOBにとつては、皇居はトレーニングコースとして在学中に何百週と走つた苦い思い出?の場所かもしれないが、皇居の内部はとても魅力的な場所なので、散策したことがない方は、ぜひ一度訪問されることをお勧めする。ここが本日の目指すピーコクであつたので記念撮影をする。中村OB、新村OBは、九十歳を超えているものの、元気に天守台跡まで歩かれており、参加者一同驚きの様子である。その後、天守台跡に近い北詰橋門を出て、本校リバティタワーまで歩く。

リバティタワーでも記念撮影をした後に、近隣の中華料理店で懇親会を行つた。懇親会では、中村OB、新村OBから草創期の歴史や春日井初代部長のエピソードのほか、戦時中の話など貴重なお話を聞いて頂いた。また、吉田OBからは、草津小屋や新入部員が二〇〇名もいた当時の話などをお聞きした。一方で若手OBからは、平成時代のワングル話などをして、その移り変わりに大いに盛り上がつた。大先輩のOBの方々は、なかな

か山登りまでは参加できないものの、このよ
うな形でOBの交流を図ることに大変喜ば
れているご様子であつた。若手のOBとして
も、まさにMWVの歴史を感じることができ
る貴重な一日であつた。

N.O. 三 高尾山・東京都

BN 395 中山光史（昭和三十五年商）

八月二十九日高尾山吊り橋コースを老若男
女七名がわきあいあい元気に歩きました。
あいにくの雨もなんのその。

山頂でびわ滝コースのヤング五名と合流。
輝く國土を遍歴してきた一行十二名が記念写
真。

山田祥二OBの徹夜？労作の八十Thと銘
打つたうちわを両手に皆さん笑顔で收まり
ました。

下つてケーブル下の茶屋で、祝八十周年！
乾杯 懇親会。賑やかにお喋りは尽きない。

最後に諏訪本監督の手締めで、お開き。

めでたし、めでたし。雨は上がつていまし
た。空高く我らは渡り鳥 明日はどこ行こう
か！尚分お一部は恐れ多くも春日井薰先生作
詞のMWVマーチからの挙げです。

安心と元気

BN 451 山田祥二（昭和三十七年商）

祝 八十周年 なかなか良い企画でどの
コースを選ぼうかなと楽しみでした。

濱田OBPLの高尾山Wでケーブルを使う
か否かの二つのコースがあり高尾山の沿革な
ど詳しく調べたパンフレットをお送りいただ
き大変気を使っていただきました。

OB会の登山は私が七十歳になつてより始
め陣馬山・箱根大涌谷と迷惑をかけ今回は妻
の付き添いなしで不安になり七月より町会の
夏休みラジオ体操に参加したところ三日目で
足が激痛になり針とマッサージで直つたので
すが登山は無理かなと思つたのですが幸い小
雨で暑くはなく眺望はなかつたですがOGよ
りの差入れのプラム、ブドウと暑い一口の
コーヒーなど食事、水分制限の私の体にとつ
てこんなに美味しい物はないと思い、昼は先
輩たちのおもしろい話で楽しく麦とろろ御飯
が大変美味しかつたです。今回もいつまでも、
ワングルの皆様と参加することは安心で元気
をもらうことで本当に幸せを感じております。

第二部は電車で「飯能」に移動して懇親会。
風呂でさつぱりしてから宴会開始。お互いMW
Vというバックグラウンド持つ者同士、近
況報告やら現役時代のことと話が弾み、時の
経つのを忘れるほどでした。伊豆ヶ岳企画は
大成功でした。

うとの指示により考えたのが今回の伊豆ヶ
岳。当初、参加者は同期だけだらうと思つて
いましたが、思いがけず山久会（昭和三九年
度卒）の先輩三名の参加を得て総勢八名、賑
やかなワンデルングとなりました。

前夜の天気予報ではほぼ一日雨。何でこん
な日にと思いながら「正丸」駅に集合しまし
たが、幸いにも合羽を着るほどの降りではな
く一安心です。初対面の人は自己紹介をし、
和氣あいあいと出発。ベース配分が下手くそ
で同期のワンデルングでは絶対にコースリーダー
に指名されない私ですが、今回は企画者の
責任としてコースリーダーを仰せつかりま
した。道は所どころぬかるんではいるもの
歩きにくいという程ではありません。濡れた
鎖場は途中で断念したものの、ほぼ予定通り
に伊豆ヶ岳山頂に到着。「記念旗」を囲んで
記念撮影の後お昼食べて下山開始。帰路は正
丸峠を経由してほぼ定刻に「正丸」駅に帰着
この歳になつても標準タイムで歩けるのはさ
すがMWV出身のワンダラーです。

N.O. 四 秩父・伊豆ヶ岳・埼玉県

BN 788 原田博文（昭和五十年経営）

実行委員会から埼玉で一つ企画を立てるよ

BN 527 池田陽一（昭和三十九年経営）

拝啓 九月に入りうつとうしい日々が続いております。先日のMWV創部八十周年記念全国一斉ワンデルングの伊豆ヶ岳コースでは大変お世話になり、ありがとうございました。久しぶりの山登りに始めは心配していたのですが途中まで一緒に歩いて私なりに満足しています。と言うのも、私は持病のぜんそくがあり山登りは医者から止められておりますので、皆さんに迷惑がかかると申し訳ないと思っておりました。やはり途中から引き返す事になりましたが、下りの一人旅はそれは気分良く自然を大いに満喫しました。

うす暗い杉の林間コースは格好の森林浴になり、また山里の道に咲くコスモスが目を楽しませてくれました。その後周りを山に囲まれた正丸駅付近で二時間程ぶらぶらしていました。一時間に二本くらい電車が止まるのに乗降客は一人も無くそれは静かな駅舎でした。たまにはこのような時間つぶしも必要かなと思っています。今後このような旅がありましたら是非誘ってください。

情断会の益々の発展を祈っています。まずは書中でお礼まで。

BN 558 奥倉勇一（昭和三十九年文）

平成二十七年八月二十九日全国一斉に八十周年ワンデリングが行われた。

最初は谷川岳に行くつもりでいたが、メンバーを見ると猛者ばかりで西黒尾根を登ると

言う、気は若いつもりでいるが体は確実に年をとっている、これはついて行かないと思いつた（最近私の近くで七十二歳の男性が熱中症から心筋梗塞になり一ヶ月入院した人がいるので、注意！注意！）高尾山はどうかと思つたが混雑するといやなのでヤメ、そこで電車賃が安く、我が家から比較的近い伊豆ヶ岳に参加する事にした。

駅を降りて雨が降つていたらやめようと思つていたが、曇り空なので皆について行くことにした。

私の信条として駅を降りて雨が降つていたら登らない事にしている。最近、私の雨具はビニール傘で足りている。山は晴れていないと面白くない。

参加したメンバーは我々三十九年度卒二、名五十年度卒五名の二代だけなので、まとまりがあつて楽しかつた。

BN 775 小田野義之（昭和五十年政経）

同期の原田が企画した、奥武藏の伊豆ヶ岳ワンデルングに参加することにした。久しぶりのチームでの山登り。精銳の揃う同期（情断会）についていくため、良い準備が必要だ。

四月、埼玉県滑川町の二ノ宮山に行く。二万五千分の一地形図「武藏小川」の中の標高一三〇メートルほどの山だが、麓の池からは約七〇mほどの比高があり、大変展望の良い山である。丘陵地帯からひとつ突出してい、山頂には展望台が造られている。自宅の青梅市から主に旧鎌倉街道に沿つて、歴史の名を残す笛吹峠などを超えて自転車を走らせた。一日がかりのバイクアンドクライム。

もちろん富士山や他の景色を見ることが叶

わなかつたのですが、天気予報のせいか登山者もごく少なく、コースもだいたいが歩きやすい道で、同僚のMも奥さん連れて来ようと張り切つていたほど、なかなか良いワンデルングになりました。

企画者でコースリーダーの原田のペースに惑わされず、コースタイムに5分と違わず正丸駅に着けたのはペーススメーカーの私の実力です（自慢！）。

伊豆ヶ岳山頂でfacebookに投稿しようとがんばつたけど通じなかつたのが残念。スナップ写真があまりにも少なかつたのは私の怠慢でした。

BN 783 奥富孝夫（昭和五十年文）

に行く機会があつたので、その帰りにつばさ総合高校から多摩川河口に一番近く歩いて行ける大師橋を渡り、多摩川堤防を上流に歩く。六号橋のたもとから旧東海道をJR川崎駅まで。このあたりの多摩川は、広々として静かでお勧め。最下流なので自転車も少なく安全である。

直前にはJR八高線の折原駅から山間部のどかな道を竹沢駅を過ぎ、小川町の西郊で楓川を渡り、ときがわ町雷電山の南標高300mほどの山地を歩いた。のどかな水田の広がる都幾川左岸を八高線明覚駅まで歩く。新しく造られた木造の駅は、小高い台地に立ち趣がある。水田のかなたに奥武藏の山々がひろがっている。このような小さなワンドルングのできる場所は東京や埼玉にも身近などころにある。

さて伊豆ヶ岳だがチャートという非常に硬い堆積岩の山で、山頂付近には岩場もあり、当日は小雨も降り大変滑りやすくなつていた。岩場は避けて安全なルートを選びました。

NO. 五 秋田駒ヶ岳・秋田県

参加者

PL—鍋つこ係 小林香織 (八九八)
岸恵智子 (五六三)
一色雅男 (五七〇)
小林雪夫 (七一五)
住田孔一 (七一七)

渡辺彰悦 (七八〇)

柳川俊康 (七九二)

村木 隆 (八二六)

本間 渡 (スキー部〇B)

参加数 県内四名 県外五名 計九名

コース

八合目～阿弥陀池 [男岳往復 女岳 (秋田駒)] 往復～横岳～焼森～八合目

献立

昼食：だまこ鍋 (比内地鶏)、ごぼう、舞茸、芋の子、糸コン、あげ、ネギ、芹、だまこ

宿泊 駒ヶ岳温泉

予算 一万五千円

コースタイム

アルパこまくさ (一〇..〇〇) ～八合目
(一〇..二五／一〇..四五) ～阿弥陀池・男
岳分岐 (一一..五五) ～男岳 (一二..一〇/
一二..二五) ～阿弥陀小屋前 (一二..四五/
一四..三五 (二三..三〇～女岳一三..四五
／一三..五〇～小屋前一四..〇〇) ～横岳
一四..五五～焼森一五..〇五～八合目一五..
四五／一五..五〇～アルパこまくさ一六..
一五～駒ヶ岳温泉一七..〇〇

駐車場と水場、トイレ、登山届を提出する案内所がある。各人で準備運動をし、岸OGを先頭にいよいよ秋田駒ヶ岳チームの行動開始。登り始めの整備された道には水を流し外部からの種子の持ち込みを防ぐため靴底をあらうようにしている。

片倉岳を回り込み阿弥陀池に向かうなどらかな道を行く。笹が両側に迫り足元にウメバチソウ、ヤマハハコが咲き、笹の間にオクトリカブトが青紫の花をつけている。片倉岳を回り込むと「赤土の広場」に出る。ベンチもあり晴れていれば田沢湖や目前に男岳が迫っている場所だが、今日はガスがかかり何も見えない。時折切れそうだが視界が広がるだけで、山頂までは見えない。広場から膝丈ほど

の灌木が増え、チングルマやハイマツが覗くようになる。一登りで平坦な木道になると男岳の分岐になる。ここで山頂へ向かう班と阿弥陀池小屋前でベースを構える班に分かれ。阿弥陀池小屋前でベースを構える班に分かれ。昼食の具材をベース班に託し、男岳に向かう班はそれぞれのベースでまず木道の階段を馬の背へ。馬の背で女岳への道を分け、急な登りで高度を稼ぐ。小ピークの上り尾根が細くなり高度を稼ぐ。小ピークの上り尾根が細くなるとほどなく男岳山頂の祠がガスの中に見えて、山頂にたどり着く。途中M・〇Bが調味料を渡すのを忘れたとベースに向かってしまつたので、男岳へは六人が到着。日ごろジムで鍛えているI・〇Bも靴が合わないとぼやいていたが、無事到着。二十分のところを十五分で登れ、まずまずのベース。下りの明

記録

マイカー入山規制中のためアルパこまくさに集合、バスで八合目に向かう。八合目には

治と気合十分にガスの中を阿弥陀池まで下り、小屋近辺は十M程度の視界であつた。昼食は秋田名物「だまこ鍋」「きりたんぽ」のようにな棒に巻き付けず、半つぶしのコメ団子をいれたもので県南では普通に食べられている料理だ。お玉の代わりにコツフェルの小鍋で掬うところが、さすがワングルと喰らせたP.L.に料理の味でも喰らせ秋田名物料理の面目躍如。天氣も上空に青空が出、時折視界が開け男岳や対岸越しに女目岳の山体が現れてきた。四連続雨に降っていたY.O.B.の悪運を自称「秋田の晴れ男」W.O.B.とP.L.の強運が優つたようだ。天氣も上向き、エネルギーを満たしたところで山頂へ向けて出発。元気なK.O.G.と天氣男のW.O.B.、山に登りたいY.O.B.と山道でも強いH.氏。階段になつた道が終わり回り込むと一等三角点のある女目岳だ。秋田駒ヶ岳の最高峰であり、最近は男女岳と記すことが多くなつてゐるようだが、ここには「秋田駒ヶ岳」の標識が立つてゐる。残念ながら視界はなし、登頂班も合流し、登つてきた道を戻る計画だつたようだつたが横岳、焼森経由で八合目に戻るコースに変更する。こんなことしたら善さんに怒られるだろうな、などと一瞬よぎつたが、遅さきのコマクサがあるかもしれないという欲求が打ち勝ち、また登るのかとの文句をなだめ出発。予定では既に、バスに乗つてゐる時間になつていて、横岳駒ヶ岳までは割ときつい登りであつたが笛を分けるようにして、稜線

へ。稜線からはガスが幾分晴れて断崖につきあげる男岳と女岳の裾野の巻き道が見え女岳のすり鉢状の山容も見ることができた。横岳を過ぎるとほどなく黒色溶岩の砂礫の斜面になり、植物保護のロープが張られいかにもコマクサがありそうな雰囲気。左右に目を配りながら歩くと咲きそこのないではなく、今シッカリ咲いているコマクサが一輪そしてまた一輪。焼森に近くになるとまだまだたくさんの株が花を着けている。無理してコース変更した甲斐があつたというもの。コマクサを堪能し、八合目のバス停に向け下る。道は雨水にえぐられ、シャクナゲの中を下り、小沢を渡り一登りし低木体を抜けていく。平らになり木道が出てくると、朝登り始めた水場の上に出る。顔を洗い靴を洗つてると全員揃い、バス乗り場へ。発車二分前であつた。バスは細い林道を、ブナ林、伐採地を抜けアルパコまくさに向かう。眼下に田沢湖も眺められ、振り返り見る秋田駒ヶ岳の山頂は雲の中である。アルパコまくさから、それぞれの車に分乗し、水沢温泉郷のはずれにある今日の宿駒ヶ岳温泉に向かつた。沢の音を聞きながら露天風呂で山の汗をながし、夕食へ。残念ながら今日中に帰るというK.O.G.は宿泊できなかつたが、夕餉を楽しみ、また乳頭温泉郷の秘湯「鶴の湯」に浸り、再び宿に戻り部屋でゆっくりと思い出話に花を咲かせました。

嬉しい誤算

BN 898 小林香織（昭和五十六年農）

いつの間にか企画者になつていた！
—どうしよう？

まずは三年上の村木先輩にご相談。
さつそく県内の小林OB（七一五）と渡部OB（七八〇）に連絡を取つて下さり、何とか四人は集まれそう、ふうー。
—それでは交通の便から田沢湖方面、秋田駒ヶ岳はどうでしよう？

「山！？ムリムリムリ！（M.O.B.）」
即答だ。これには困つた。

せつかくなので山の雰囲気をと、バスで八合目まで行つて帰る、ゆる〜い企画を提出する。

すると意外にも、関東方面OB諸氏から、「（当然）ピークまで行くんですよね？」的問い合わせが続々。

—センパーイ、もう登るつきやないですか
それからは、同じ大曲にいらつしやる渡部OBも思いつき巻き込み（スミマセン！）出来上がつたのが、（秋田駒ヶ岳で鍋つこ＆デルングだが、三人のチームワークもバツチでだんだん期待が膨らむ。

を持ったことが本当にうれしい。

山は卒業以来というW・O・B、「俺、登つちやつたよう！」と最高の笑顔！！

思いがけず関東方面の大先輩方にもご参加いただき、今までお話を出来なかつたけれど、これからはO・B会等でお会いするのもとっても楽しみだ。

他のワンデルングに参加している同期達と連絡を取り、動きがわかつたのも面白かつた。

色々といたらず、いっぱいフォローしていました。

なんだかなつかしい、ここちの良い時間でした。素晴らしい機会を作つてくれた企画振興部の方達には本当に感謝です。

全国一斉ワンデルングは、MWVの紹を再確認させてくれました、マル。

秋田駒ヶ岳に参加して

BN 563 岸恵智子（昭和三十八年短）

前日の二十八日田沢湖高原温泉郷に一泊、翌二十九日アルパこまくさで、参加者（九名）と合流、アナログ人間の私、情報を得ることもなくぶつつけ本番の初顔合わせでした。なんと参加者全員私より遙か若い方々でした。私が最年長でありました。体力気力十分そう

な面々で緊張、もし歩けなかつたらと不安が過ります。本来自然大好き人間、周りの秋色をあじわいつつ、時折現役時代の苦労話をするやうで、緊張もほぐれ、男岳をのぼり阿弥陀池に到着、先発隊がサプライズのままこ鍋（きりたんぽに似てゐるとか）を用意して下さり、昔のワンデルングを思い出すシーンでした。時折陽も差し込み、いよいよ男女岳へ、二〇一三年山久会の山旅で鈴木正彦さんのみ登り、我々はコーヒーを味わいながら阿弥陀池から登山姿を見上げていました。リベンジのつもりで参加した訳です。リーダーの

小林香織さんが大鍋をかつぎあげ支度から片付けまでして下さり東北方面の方々共々の協力感謝です。帰路は横岳焼森経由、駒草が咲いているとの情報があり期待に胸をふくらませ、登りも下りもなんのそので、ついにヤッター！駒草達と出会えた訳でした。シャッターを押すこと押すこと、きっと良い写真が取れた事でしょう。その後全員で駒ヶ岳温泉へ、今日の泊りの宿です。その晩は話に花をさかせた事と思います。私は翌日予定があり、温泉で汗をながしてから帰途につきました。思いがけない企画、心も体もエキサイト十分楽しかった一日でした。九十周年には？？かな。

県外から、関越自動車道や新幹線で新潟市にむかうと、進行方向左手の海側にふたつのやうになつていて、これはこれで貴重な体験です。

いざれも新潟のシンボル的な山ですが、今回記念登山では角田山を選びました。

角田山は標高四〇〇メートル少しですが、海からそそり立つ山であり、標高の割りに手ごたえがあり、登山道も複数あつてそれぞれ個性的な山の表情を見る事ができます。

八十周年記念登山の山を選ぶにあたつて、新潟県内にはたくさん候補となる山はありましたが、市街地近郊で高齢者であつても登りやすく、かつ登り応えのある個性的な山となると、角田山は最適といえると思います。コースは駐車場が広く、山道もよく整備されているという稻島コースを選びました。

今回の山行は、山田先輩と私浦部で企画し、企画者あわせ五人の参加者がありました。齊藤先輩、山田先輩、私の妻（OG）と私の小学校三年生の息子です。

当日はあいにくの雨となりました。

社会人となつてからは雨の山行はさけるようになつてきましたので、これはこれで貴重な体験です。

参加者みなさんも同じ気持ちだつたようで、

BN 1157 浦部頼之（平成七年文）

NO. 六 角田山・新潟県

雨天でもあまりどんよりした気持ちにはならず、そのうち晴れるだらうと根拠のない楽天的発想で出発しました。

歩き始めると、登山道は想像以上に整備されており、ありがたくも迷惑なコンクリート状の階段がえんえんと続き、ちょっと辟易とします。

そしてコンクリート階段が終わると、これも想像以上の急登が我々をまちかまえていました。

もしかしたら、参加の皆様は、想定と違うと思われたかもしれません。

しかし、我々はワンドーフォーゲル部OBであり、立派な大人です。

そこは、愚痴も弱音もはかず、淡淡と登り続けて、ようやく見晴らしのよいお堂につきました。山頂ではありませんがここが今回のコースの一番の展望ポイントでした。

角田山山頂はなだらかで広々としています

がほとんど展望はありません。そこで、ここから一応は山頂を目指し展望のない三角点の前で写真撮影をし、再度この眺めのよい場所にもどり長めの休憩をとりました。

ただ残念ながら小雨はやまず、展望ももやがかかりあまりよくはありません。しかし一方で、気温はすずしく登山者もあまりおらず、静かな山での時間を過ごすこと

ができました。

帰りは小雨のなか一気にくだり、近くのワイナリーにある温泉施設に入浴しました。

すると、お約束のように雨はやみ晴れ間が見えました。

残念ながら山での展望はありませんでしたが、久しぶりにワンドーフォーゲル部時代のなつかしい話をしながらの登山は、なかなか楽しいものでした。

参加の皆様もこれを機会にまた、いろいろな山に登つてみようと思われたのではないでしょうか。

今回の記念登山を計画し、準備いたしました

皆様には心から感謝申し上げます。

また、お忙しい中、つたない企画にご参加いたいた、斎藤先輩、山田先輩ありがとうございました。今度は晴れを選んで県内の山めぐりをしましよう。

NO. 七 鋸山・千葉県

BN 871 平田正博 (昭和五十五年政経)

霧雨の一日だった。

山を下りて出発地の浜金谷駅そばの旅館で温泉につかり、懇親会となりましたが、差し入れの焼酎に心地よく酔いが回り、帰りの電車で寝過ごしそうになつた人もあつたとか。この温泉は久里浜—金谷のフェリー乗り場まで歩いて行ける距離ですので、フェリー、ロープウェイ、山、温泉、電車と変化があり、老若男女それぞれがそれなりに楽しめるスポットもあります。

また、嬉しいことにNO. 九五一高野万智子OGから千葉特産ピーナツツとお酒の差し

鋸山という山は文字通り全身に歴史を刻みこんでいるような山で、かつて山中の石切場で働いている人々の情景が霧の中に彷彿と浮かんでくるような、ある意味ロマンチックな場所でもありました。

入れも頂戴いたしました。
ということでワンデルングも無事に終わりましたことを何よりの慶びと致しましてご報告いたします。

N.O. 八 鈴鹿御在所岳・三重県

八十周年記念ワンデルング報告文

BN 1120 天野敬之（平成五年政経）

日時 平成二七年八月二九日 土曜日

場所 鈴鹿山脈 御在所岳→天候不順により

名古屋市内にて 懇親会を開催
変更

参加者 四三八 伊藤 新吾

四七七

天野

淑明

六一二

山内

利人

六八二

森田

峰彦

七五三

小松

宏之

九〇六

石田

猛

一一二〇

天野

敬之

以上七名
敬称略

あきらめきれないワンダラーは当日十七時半から、名古屋市内において場を懇親会に代えMWV 80周年を違う形でお祝いいたしました。

会場にはMWV Tシャツを着用し、明治大学の幟を持ち込み、壁には登頂予定でありました御在所岳山頂風景を超拡大し貼り付けました。

未練は大きかつたですが登頂の雰囲気を味わいながら、近況報告、部活談義におおいに花が咲きました。

秋のよき日にリベンジ登山を誓い、短時間ではありましたが、内容の濃い懇親会となりました。

N.O. 九 矢倉岳・神奈川県

MWV & なため会ジヨイントW

二年 奥山 昂

今年創部八十周年を迎えたワンダーフォーゲル部だが、それを記念し、OBであるなため会の方々と合同の記念ワンデルングが開催されOBの方々と一緒に山に登るという機会に恵まれた。普段、現役とOBとは一緒に山に登ることはなかなかないためとても貴重な

体验となつた。今回登った矢倉岳は標高が比較的低く、また天候に恵まれたとあって秋を感じられる大変楽しいワンデルングであつた。また、先発隊が山頂で作ったカレーはおいしくて、OBさんにも好評であつたのによかつた。

今回、A班は道に迷うことが少しあり、OBさんに教えてもらつて進むということもあつた。OBさんでもしっかりと読図をされていて読図力の高さを実感したとともに、我々も机上登山など下見を普段の合宿でもしっかりとしていきたい。また、体操だがOBさんにあわせてもつとゆっくりやるべきだつたなと感じた。このように今回学んだことを多いのでそれらを今後の合宿にいかしていきたい。

さて、今回OBさんとご一緒に山に登りお話しする機会もあつたが、なんでもご存じで、これまでOBさんに抱いていた印象ががらりと変わり、今まで以上に親しみを感じる一方、偉大さも実感させられた。ただ現役でほとんどOBさんと話していない人もおりもつと交流したかったなというのが正直なところであつた。ただ、OBさんが現在どのようなことをされているのか少しだけでも知ることができ、よかつた。さらに今回、山頂直前の校歌齊唱においてだけ現役とOBさんと一緒に歌を歌う機会があつたが他にも、なためやMWVマーチなども歌う機会があればよかつたなと感じている。

最後に矢倉岳頂上で現役、OB関係なく80周年記念のTシャツを着て撮った集合写真が個人的には印象的だつた。将来、自分にも今度はOBという立場で現役と写真を撮る機会があればなと感じ、この部の節目の年に現役としていられることに嬉しさを感じた次第である。

最後に、今回参加して、OBの方々、そして現役のみなさん、お疲れ様でした、そして、ありがとうございました。

三年 落合裕太

I
感想文を書こうとして、しかし書き倦ねていたとき、ふと机の横に積んである本の山に目をやると、随分前に買ったきりの若山牧水の歌集があつた。手に取つてバラバラと眺めているうちに（歌集など、たいていは流し読みで済ませるのが常だ）いつの間にか読み耽つて、牧水の山河を分け入つていて自分があつた。

この国の山低うして四方の空はるかなりけり鶴の啼く
わがこころ青みゆくかも夕山の木の間ひぐらし声断たなくに

海の声山の声みな碧瑠璃のそら天に沈みて
秋照る日なり

山ねむる山のふもとに海ねむるかなしき春の国を旅ゆく

独り居て見まほしきものは山かげの巖が根ゆける細渓の水

あいにく矢倉岳に関する歌は見当たらなかつたが、一生を漂泊に過ごした牧水にはやはり山の歌が多い。しかしどうも彼にとつて旅とは「つくづく寂しく、苦しく、厭はしく思」われるものだつたらしく、「何の因果で斯んなところまでてくてく出懸けてきたのだろう、と我ながら恨めしく思はる時がある（草鞋の話 旅の話）」そうだ。しかし続けて牧水はこう書くのだ。「それでて矢張り旅は忘れられない。やめられない。これも一つの病気なのかもしれない」と。

幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国
ぞ今日も旅ゆく

II
彼の壮絶な人生とは当然比すべきではないが、この旅への実感はワンゲルの一部員である私としても、かなり共感のできるものだ。一体なんのためにこんな奥深くまで進むのだろう、と恨めしく思う時も確かにある。しかしこのような、決して楽では無い山行こそがいつまでも記憶に残つていてもまた、事実なのである。OBさん方に思い出のある合宿

を伺うと、やはり辛い体験をした山行のことが印象的だつたらしい。「あの頃は合宿で山道なんか歩かなかつた。4泊5日いつまでも藪漕ぎで進んでいたヨ」「山用品なんて今と違つて単純だから毎回荷物が30、40kgになつていていた」「北海道の合宿の際は初日から雨が降つていてどうにも困つたねえ」。いくら装備が改良された所で、やはりワングラーラ達の悩みの種が今も昔も、移り気な山の天候であることには変わりがないようだ。

III
降るべくは降れ照るべくは照りいでよ今日の曇はわれを狂はしむ

III
山行中はみなさん健脚で、見落としそうなほど小さな花にも気付いて、しばし一緒に眺めて見たり、安曇節を現役が1番を、そして2番、3番をOBさんが一人ずつ歌つてくださつたりした。山の中を歩いているとおのずと先輩方の後ろ姿や表情から、そして私たち現役も同様、何かある種の清爽の気が漲つて行くのを感じていた。山の空気を吸い、班の人々と語らい歩むことによつて、自らの内面が満ち満ちてゆく。それこそが山の恩寵といふのか恵みなのかもしれない。

我が若き胸は白壺さみどりの波たちやすき
水たたへつつ

IV

いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見むこのさ
びしさに君は耐ふるや

我々はこれからも、かつて先輩達が歩いた
山の道を訪ねてゆくのだろう。道というの
は一人の名も知らない誰かが、さびしさに耐え
つつ歩いて初めて出来るのである。そう考え
て牧水の歌集を読みつつこの日の山行を思い
出すと、案外山にはどことなく人の気配とい
うものが漂っているのではないか、と感じら
れて来る。まだ見ぬ山にも、行けばきっとか
つてのワングル部員達の背中があるのでな
いだろうか。

終りたる旅を見かへるさびしさにさそはれ
てまた旅をしそおもふ

三年 松井遙奈

たので新しい発見が多く貴重な体験になつた。
今回の山行では手白小屋を建てたくらいの
年代のOBさんもいらつしやつて、今まで心
て信じ切れていない部分があつたが、直接そ

のくらいの年代のOBさんと会つてみること
で本当にそうだつたのだと実感できた。実

き始めた訳である。

八十年Wの一ヶ月前、尾崎コーチのアド
バイスもあり、矢倉岳周辺の下見に出かけた。
その日はシルバーウィークの中日でもあり、
周辺のスポットも随分と賑わっていた。その
日は山頂こそ行かなかつたものの、足柄万葉
公園はバードウォッチング目当てに多くの人
を訪れ、大切に守つていただきたいと思う。

今までにも、私は丸正の下見や道志村の
リーダー合宿に行つたので監督やコーチとお
話しする機会には恵まれていたほうだと思つ
る。毎回OBさんとお話しするたびに、OBさん
のワングルへの強い思いが伝わってきて、ワ
ングルが80年も続いているのは今までの先輩
方の努力のおかげなのだと気づかされる。こ
の部活も、手白小屋のように目に見えるもの
ではないが、同じように大切に守つていただき
たい改めて感じた。

そして当日。残念ながら、私は矢倉岳で昼
食を用意する班に参加したため、じつくりと
OBOGの先輩方とお話しすることができな
かった。しかし、過日鈴木正彦OBがアップ
ロードして頂いた動画を拝見した。動画を見
て一番驚いたのはそのペースである。計画当
初は、流石にペースが遅くなるのは、と思
案していたが、その考えは見事に吹き飛んだ。
ペースが予想以上に早く、驚いた。実際、山

頂には所定より三十分早かつた。

山頂では、黒毛和牛を使用したビーフカ
レーを作つて振舞つたが、OBOGの先輩方
からも好評のお声を頂き、現役としても一安
心した。また、矢倉岳山頂で明大ワングルの
現役・OBOGが一堂に会している様子はま
さに迫力ある様子であつたし、企画した私に
とっても感慨の思いでいっぱいであつた。

この場を借りて、参加していただいたOB
OGの皆様、本当に有難うございました。

NO. 十 吉野ヶ里遺跡周辺・佐賀県

夏の夜の夢

(M・W・V八十周年記念ワンドルング
九州・山口ブロックに参加して)

BN 794 光浦 穀 (昭和五十一年商)

夏の名残りをまだ感じさせる快晴の下、各地から様々な年代のOBが佐賀県神埼へと集まり、温泉入浴・宴会・野外での二次会、翌日の記念ワンドルングと、楽しく二日間を過ごしました。しかし楽しい時間は、あつという間です。別れもすぐ訪れました。

まず宴会後、浜田先輩が、「明日も仕事だから」と言い残し、目の前で機関車ハーマスに変身するや否や、鋭い汽笛一声と共に、銀河鉄道に乗って北九州へ帰られました。とても八十二年前製造とは、思えない堅牢な車体とお見受けしました。

翌朝には、鷺津先輩が、翼を大きく広げ「さらばじゃや！いざ薩摩へ」と一言発するや天空へ飛翔し南へ飛び去られました。江口先輩は、最後に「JMN」と大きな声で言われたので何かいな?と思えばすかさず「じゃーまたね」と解説をしつつ、爆音を轟かせ赤いワーベンで颶爽と帰られました。その後、「今宵は、熊祭り」と聞こえたような気がするので振り返ると、そこには村山君がいて本当は、

「今日は、小城ようかん祭りの手伝いやけん」と言うローカルな理由で帰つて行かれました。なんでも見た目で理由を判断しては、いけないですね。又、宴席で怪しげなマントの下から、当時のユニホーム、飯盒、ポリタン等次から次へと懐かしい物を魔術のように出現させ皆を喜ばせた高取君が、最後には、大鍋を出して、正部員養成時のカレー鍋の残りですがと、皆に振舞つた時は大変驚きました。

恐る恐る食べてみたのですが、そのうまい事。一晩寝かせるとおいしくなるカレーが、三十年経てばさらにおいしくなるのは、当然です。しかしながら物持ちの良いのには、感心します。又、「何か面白い趣向を」と事前に課題を出していたら、当日薪を担いで来て、しかもそれを燃やせる、山奥の草深い場所にあるスナックを見附出し、しかもその脇で焚火をする許可まで得るという異能ぶりを發揮した佐々木君等、今回の企画・運営の中心となつて活躍された六十一年・二年卒の皆さん、地元の名物「神埼ソーメン」を食べて帰るという事で別れました。そして夏の午後の陽光の中に全員消えていきました。

又、元の一人になつてしまひました。ふと見ると、昨夜のスナックの女主人とホステスさんが、買い出しに行くのでしようか目の前を歩いています。後姿を見たら、大きなしつぽがはみ出していました。「やつぱり！」見上げると秋の兆しを感じさせる空が広がっています。もはや点になつてゐる鷺津先

輩は、「チエスト！」の気合いと共に、日航機を追い抜くところのようです。

クラブを卒業して早四十年、過ぎ去つてみれば夢のような気もします。この二日間も夢の続きだったのかもしれません。ひょつとするとこの記憶も夢の中の事なのかも……。

同じクラブで過ごした縁で、生まれも育ちも違う方々と昔話に花を咲かせる事が出来る幸せ、これも連綿と「M・W・V」を支え続けて来られた歴代の大学関係者・OB諸兄の尽力の賜物であると感謝をいたしております。又、このような機会を与えて下さった僕の同期の濱田君を始めとし、東京本部でこの度の企画発案及び実務を担当された委員の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

NO. 十一 谷脇嘉徳 (昭和五十五年商)

同じ飯盒の飯

BN 860 谷脇嘉徳 (昭和五十五年商)

卒業してから早三五年が経とうとしている。その間、順風満帆には程遠いながらも、仕事に励み、家族に人並みの暮らしをさせることができた。ただ、その時々で、悩み、苦しみ、眠れぬ夜も少なからずあつた。そして、創部八十周年記念中四国ワンドルング。ある先輩がおつしやつた。「この部が私を育ててくれ

れた。私の礎はこの部にある」。この言葉を聴いた時、この先輩と私は同じ飯盒の飯で繋がっていると強く感じた。そして、改めて意がちになることや、目をそらすことがあつたとしても、前だけは向いて歩もう。なぜなら、それがこの部で教えられた私の心の礎であるからだ。私にとつて明治大学ワンダー・フォーゲル部とは、そういう存在である。

NO. 十三 草津温泉芳ヶ平・群馬県

創部八十周年を 草津温泉と芳ヶ平から

私たち「海千山千会」は祝います。

BN 598 長唄栄喜（昭和四十一年商）

今年の夏は八月中旬からその輝きを失いました。九月に入り、秋雨前線が日本列島に張り付き毎日が雨模様。私たちの期待のバルーンは後日知ることになる「東日本豪雨」により一突きであつさりと弾けてしまいました。被災者の人たちには誠にお気の毒な事でした。被災地の方々を思えばおこがましいことです。が、芳ヶ平に足を踏み入れることなく草津を後に帰途にむかつたときは私たちも全く被災者の気分でありました。台風十八号影響下で行動しておりました。

その九月八日九日の二日間を簡単に振り返ります。八日（火）はすでに草津は雨の中でした。八人のチームでその日は今宵の宿「草津ホテル」に予定通り午後四時に到着。学生時代から一度は泊まつてみたいと思ったとして、前だけは向いて歩もう。なぜなら、私もこの時点では余裕をもつて楽しんでおりました。宿の食事処での宴会は八十周年記念旗のポスターを壁に貼り、八人揃つての記念写真、学生時代の話には笑いもありました。が、さすがに翌日朝方の時折の強い雨には幾らかの動搖が走りました。それでもあり得ないはずの好転を期待し、全員お揃いの記念ティーシャツを身に着け代替案の渋峠から芳ヶ平往復に向うため八時半、宿を後にしました。私が運転する八人乗りのボックスカーは直ぐに雨の中、緑の広がりを見せる天狗スキー場や御成山スキー場への木々の間を感傷深く右に左にとハンドルを切りながらロープウエー駅の雨に煙る索道とした景色に到着。このあたりから雨は一段と強まり、左手の壁をこじ開けるように存在する大きな石で埋まる沢すじは、泥を含んだ真つ茶な水が滝のごとく流れ落ちて雨量の多さが明らかです。山田峠に至つては激しい雨に視界も利かず、加え、強風に搖さぶられ、今回は芳ヶ平をあきらめざるを得ませんでした。それでも渋峠で記念写真をと挑戦しましたが、ものすごい雨飛沫を浴びるのみで一枚すら撮ることかなわず、草津へ戻ることになります。ラムサール条約地

域のチャツボミゴケ公園から平兵衛池巡りを次の選択と考え公園管理事務所に携帯で問い合わせすると、中之条地域が土砂災害警報下にあるということと車道、遊歩道を含め周辺地域も強風豪雨の悪環境にあるということです。これも断念せざるを得ませんでした。残るは「西の河原」の露天風呂で全てを洗い流すのみと立ち寄るも、強雨下の露天風呂では風邪でもひいてはかなわないとこれも駄目。ダメだし連発で今回のワンデルングは終わつてしましました。本当に残念でした。

それでも昭和の温泉の町、草津の思い出を探すべき、ガーデンハウスの周りをうろついて草津山小屋の面影を追い求めました。大阪屋の松の木と提灯は昔ながらに我々を手招きしているようでした。公共施設も街並みも整備され、今や、おしゃれな「リゾートタウンの草津町」。昔を思い出しながらの時間を仲間たちと共有できたことは大いに満足でした。長い助走の末この企画も終わりました。既に古希を超えた私たち、次の周年記念に健常者として参加できるかどうかを考えるとこの八十周年を同期の仲間たちと強く心から祝いたいと思っておりましたから。

さて最後に、今回の私たちの同期からのコメントを紹介します。

● 楽しい温泉旅行を満喫しました。ありがとうございました。台風の影響で山行はできませんでしたが同期の皆さんとゆつくり語り合えて良かつたです。草津十五時のゆけむり号バスで新宿に

十九時二十分に着きました。バスの中でリベンジを考えました。十月一日・三日・日程変更可。賛同の方と一緒にしましょう。(五九四・秋元道別) ●挑戦者の皆さん、本当にご苦労様でした。山は動きません。次回は何とかして参加したいと思います。(六一〇・石田正) ●新人歓迎Wで入った明治大学草津山荘と草津温泉街。五十二年前の面影を探してのW、様子はすっかり変わっているが昔の姿が甦る。同行のメンバーも当時と変わらず、暴風雨で芳ヶ平は見送ったが、心豊かなW!また訪れよう。(五九七・大洞聰) ●皆さん、悪天候の中本当にご苦労様でした。小生も参加の予定でしたが検査入院のため日程がダブリ皆さんには申し訳なく思つております。又残念な思いをしております。八日九日は長野と群馬の県境あたりにも大雨警報が出ていたので心配していました。八日は寝つきが悪かったよ。九日昼過ぎ電話で目的地のことは断念したとの返事でした。無事で安心しました。さすがMWV優等生、天候の判断を勇ある撤退に敬意を表します。(六〇五・吉池格) ●長唄、先達さん厳しい状況の中お疲れ様。目的地「芳ヶ平」へは台風崩れの激しい雨風で残念ながら着けなかつたが、今回参加出来た者、出来なかつた者、この様な状況だからこそ「MWV 80周年記念」を祝う気持ちが渋峠の嵐状態の中で結集したように思えた。小生の大好きだつた「草津の山小屋」の跡地と思われる場所(向いの中学

校はないが横にガーデンハウスの看板があつた)を通過した際、いくつかの記憶が懐かしく、ほろ苦く甦つた。それは入部して一ヶ月、上級生を介してか話せなかつた「天皇陛下」みたいなPリーダを「各班リーダ集合!」の一言で集めてしまう「陛下」より偉い人がMWVにいらつしやる事に驚いたこと、そして、先輩に連れられて、風呂上がりの棒状に凍り付いたタオルをもつて雪に埋もれた夜道を歩いたことです。続々はまたの機会に取つておきましよう。帰路、出発地の飯能に着く頃は青空が広がつてきて、やれやれこれで電車に乗つて帰るばかりと思つたら八王子行きの八高線が多摩川の増水で不通。何とかその日のうちに帰宅できたが何事も最後まで油断してはいけないという「教訓」にも満ちた「山行」でありました。皆さんありがとうございます。(五九九・清水邦彦) ●海千山千会を代表され参加された八人の皆さん、ご苦労様でした私も今度の飲み会は参加させて頂き、今回の状況を伺わせていただくのを楽しみにしております。(六〇七・伊丹直樹) ●同期会企画Wは、持病になつた心臓の負担を考えると無理かなと躊躇したが、今回は思い出の地である草津もあり、思い切つて参加しました。参加して皆と素晴らしい思い出を今回も共有できたことを本当に良かったです。(六二二・山内利人) ●MWV八十周年記念として海千山千会が企画した草津温泉と芳ヶ平散策に参加しましたが、八日、九日特に九月八日は朝から土砂

降りでした。当然チエックアウトの時間を延長し温泉と酒を楽しむのも良いと思っていました、さすが公式Wとなるとワンゲル魂が優先され八・四五分ホテルを出発渋峠芳ヶ平へ向かうも自然にはかなわない、強風と土砂降りで渋峠より草津に退却を余儀なくされ、懐かしの草津をイメージするも全く変わつてしまつて、帰路、出発地の飯能に着く頃は東日本豪雨の中のワンデルングに参加された方々本当にご苦労様でした。小生は仕事の為に不参加で何もお手伝いできずごめんなさい。次の機会には参加します。(六一三・片山直文)

この感想文に、参加できなかつた上、土屋、難波、山田、我らの女子会、田中、川井、菊池、文章でのコメントを紹介叶いませんでしたが、皆一様に同期会W企画を喜んでくれました。心はいつも既に鬼籍に入つた大江、出口、初沢を含めた二十名の同期会、又いつか一緒にWできると思うと頑張れます。元気にこれからもMWV学生諸君を、なため会を、そして自分たちを、応援していきたいと思つております。

NO. 十四 東海道品川宿・東京都

東京都内最高峰の品川富士に登ろう！

BN 625 管野隆夫（昭和三十八年商）

我ら渡鳥十四名は八月二十九日十一時、京急本線北品川駅に集合。小糠雨のなか品川富士（富士塚）登頂目指し元気に出発した。

江戸時代、江戸の町の中に数多くの富士塚が築かれて富士塚登山が流行った。これは富士山信仰として富士登山と同様のご利益があると、されていたからであり、今も多くの富士塚が都内各地に残っている。

品川富士は品川神社境内にあり標高が十五M（品川富士のみは高さ約五M）。今でも毎年七月一日には山開きが行われており都内では最高峰とされている。

雨は昼前に上がり渡鳥たちは旧東海道品川宿本陣跡など名所旧蹟を巡り、途中の荏原神社に参詣して目的地の品川神社に到着した。

神社に登る大きな石段の前に立つ鳥居の柱には上り龍と下り龍が巻き付き「双龍の鳥居は東京に三か所しかなくその中で品川神社が一番古い」との鈴木の説明に耳を傾けた。

双龍鳥居をくぐり急な石段を上がり石段途中の登山口へ。いよいよ登頂開始！二合目三合目と登つて五合目から急坂が続き八合目か

らの鎖場を越えて頂上に到達した。山頂で全員八十周年記念Tシャツ姿で木島持参の超特大横断幕を揚げ万歳三唱して記念写真撮影。下山後、品川神社と浅間神社に参詣。境内に陶製の狛犬が鎮座しており、鈴木によれば「備前焼の珍品で文政十三年（一八三〇）造」とのこと。

「備前焼の珍品で文政十三年（一八三〇）造」とのこと。

街並みを散策し楽しい一日を過ごす。幹事さんたちに感謝

BNBN 501494 木島敏夫
前田芳弘

辰巳午の会も後期高齢者に突入しました。

老体に鞭打つて有志集い品川富士に挑戦。

一々五合目まではスイスイ、六々八合目は急登、頂上までは鎖場。頂上にて万歳三唱。

ワングル万歳。

富士山踏破後のビストロ最高

NO.十五 金峰山・山梨県

BNBN
625513
山本務
管野隆夫

狂歌

「チビ管」と呼ばれ続けて五十年

「蒲原焼の柏大見つけ珍品!!と
今日登るチビ富士 五ノ」

威張る梓は超珍品」

ワアーライ　ヤツタ－　はじめて　フジ山に
登つたワ　十四名の参加者が、八十周年T
シャツを着て　キネンの写真を撮りました！

ワンドレンジコース
北品川—旧東海道品川宿散策—品川神社
(品川富士登山記念写真) —荏原神社
—青物横丁(昼食)

現役三年生 BN 835 猪狩 稔 神内亜美

お食事処
ビストロ ラバンドール
品川区南品川二一十四一十四
〇三一三四五〇一八七六

五四のオッサン登山隊が行く

創部八十周年記念オールなため会

ワシルンケ金峰山行紀

ピードで快調に飛ばしていた先頭の佐藤車が突然止まつた。何事かと思っていたら、車のサ一チライトに照らされて、大きな鹿が三頭道路を横切つて行くのが見えた。後で佐藤に聞くと、「あいつら道路の脇でジツと見てんだよ。氣味悪いゾー。」とか。とりあえず鹿と衝突しなくて良かったのである。鹿と心中はご免なのである。

「オールなためワン・デル・レング」企画として、昭和五十六年度卒業の「郷路会」同期の田邊 佐藤、山下、永井、藤原の「五匹のオッサン 登山隊」が金峰山を登ることとなつた。田邊が報告する。

「俺も先週八幡平を縦走した。天気が悪くて大変だった。」と永井。

「俺は夫婦で最近会津磐梯山に登った。天気

「ふう。」
が良くて最高だつた。」と俺。

「俺、この間槍ヶ岳に行つてきたよ。」と藤原

一
おお
すこい

「俺も最近槍ヶ岳に行つてきた。」と佐藤。
「おお、それまたすごい、凄い。」

「　　」というように、登つた山のインパクトは違うものの、それぞの山談義を小声でしつつ、更に夜は更けていった。

缶ビールを一本ずつ開けたところで、出発は五時三〇分ということになり、それぞれの車で仮眠することとなつた。永井はイビキがすごいので、医師からイビキ防止用装置（本人は「生命維持装置」と呼ぶ）をつけることをすすめられたとか。一緒に寝る佐藤は大丈夫か、などと思いながら久しぶりの寝袋にもぐり込んだ。すでに時計の針は深夜の一時を大きく過ぎていた。

翌朝、というより寝袋に入つて四時間後であるが、車のドアガラスをコツコツと叩く音で目が覚めた。顔を上げて薄眼を開けると、そこに佐藤の顔があつた。時計を見ると五時をすぎており、五時三〇分には出ようと言つていて慌てて起き上がる。どうやら雨は降つてないが、空を見上げるとどんよりした雲に覆われていて、いつ降つてもおかしくないような空模様であった。急いでザックを用意するが、コンロやコツヘルは藤原が持つていくというので車に置いていくことにした。それを見た佐藤が「天気予報が雨だからさあ、まさか登るとは思わなかつた。コップも持つてきてねえよ。」とかいう。その隣で永井が煙草を吸いながら「ダメだ。すつげえ眠い。」とつぶやく。このオツサン登山隊ははたして大丈夫かと少し不安になる。

トイレや着替えなどでモタモタしていたら、結局出発したのは五時五十分頃であった。歩き出した時、まるで出発の合図の用に遠くで甲高い鳥の声がした。

駐車場から樹林帯の中を登山道がのびており、現役時代から読図が得意の藤原を先頭に五匹のオツサン登山隊が歩き出した。地図を見ていると、佐藤が「お前地図読めるの?」と聞くので、「地図は読めなくとも見るだけならね。」と謙遜して言つたつもりだつたが、良く見ると磁石の向きと地図がさかさまである。どうりで変だと思つた。見られないようになつそりとひつくり返す。

樹林帯を抜け、途中で林道を少し歩くと「富士見平小屋」への標識と登山道入り口があり、いよいよ本格的な登山の開始である。

昨夜の雨でところどころがぬかるんでいる。水たまりを見た永井が「こういう水たまりで靴が汚れると気分がへこむわー。」とつぶやくよう言いながら、靴がぬれないように器用に水たまりのへりを歩く。しばらく歩いていると少し雨が降り出した。まだ小雨であること、樹林帯のおかげでそれほど濡れないで済みそうだ。カツバを着るかどうか迷つていると、永井が小さなかわいい緑色の傘を取り出した。オツサンにはいささか似合わない傘ではあるが、ずっと見ていると目になじんでくるから不思議である。

歩きながら山道の周囲を見ると、高山植物ではなくキノコがあちらこちらに生えているのがわかつた。良く見るとキノコだけである。中には一〇cm以上もあるデツカイキノコが「どうだコノヤロウ」とばかりにそそり立つている。

道の途中で、若い山ガールが「こんなのが見て見た。」とか言いながら、立ち止つて大きなキノコを撮影し、その横でパートナーの男性が苦笑いをして見ている。キノコもこれだけ注目されると生えてきた甲斐があるというものだ。

山荘駐車場から五十分ほどで富士見平小屋に到着する。富士見平小屋は地ビールなどもある大きな山小屋である。小屋の前は広く、休憩用の机といすがいくつか置いてあり、雨にもかかわらずたくさんの登山者が休んでいた。昨今の登山ブームということもあり、登山者のスタイルも華やかでカッコが良い。それに比べて我々オツサン登山隊のスタイルはいささか野暮つたい。

「登山は格好じゃないぜ。」とか「ケツ、何つてもやつぱり作業ズボンが一番だな。」などという会話が何だか空しい。カツバを着ながら「これは一萬円以上もするんだ。どうだ。」という話になると、もういささかヤケツバチである。

そんな華やかな登山者を尻目に、カツコをまるで気にしない五匹のオツサン登山隊はまろどろに岩場が目立つようになる。小一時間も歩くと視界が開け、大日小屋の上に出た。そこは大きな庭ほどの広さがある草地で、すぐ下に大日小屋の青い屋根が見えた。大日小

屋は現在、無人小屋であるが、藤原が「いつかお世話になるかも。ちょっと見てくるわ。」と言つてカメラを持つて下つていく。どうやら小屋の中は、毛布が広げてあつたりして十分使えるらしい。

「ただし毛布はちょっとねえ。誰が使つたかわからないから怖くて使えないよねえ。」と、見てきた藤原は苦笑いである。

休んでいる間にも雨がそれなりに降り始め、山頂まで行くかどうか迷う。相談した結果、いつでも引き返せるように、ところどころでO B会が作つた記念旗と一緒に証拠写真を撮ろうということにした。オッサン登山隊の

モットーは、疲れたら無理しちゃアカン、なのである。

大日小屋からかなり岩場の多い道となる。雨のせいで岩もすべりやすくなつており、やや足腰の弱り加減のオッサンたちにはつらい道である。小屋から三〇分ほど登つた大日岩下の岩場のところで全員が立ち止つた。

この岩場の少し上段の岩陰に、ひつそりと隠すようにして横幅三〇センチほどの金属ブレートがつけられていた。実はこのブレート、三十三年前にこの大日岩下の沢の滝つぼに滑落死した同期の戸沢の冥福を願い、取り付けられたものだつた。そのブレートの場所まで大きな岩をひとつよじ登らなければならぬのだが、登る場所がなかなか見つからぬ。よく見ると、腰より少し高いところに少し出つ張つたところがあり、そこに足をかけ

れば何とかなりそうだつた。

佐藤がエイヤツとばかりに足を広げ、何とか登ることができた。次に永井が登ろうとするがなかなか足が届かない。「田邊、ちょっと尻を押して。」と言われ、下から押し上げ

まつた。その様子を見て、他の面々は結局、遠くから回り込むことにした。登つたあと、

一人だけ直接岩を登つた佐藤は「登れたのは俺だけだな。」と得意満面である。その横で永井が「なんかさ、スッゲー悔しいだよな。」と小さな声で呟いた。オッサンにもブライドがあるのだ。

ここで山下が大事に持つて来た記念旗を取り出し、全員がブレートの前で写真を撮つた。雨がやまないこともあり、さて、何となく引き返しても良いか、というムードにもなりかけるが、「せつから山頂まで行こうぜ。」と、一番登る気がなかつたはずの佐藤が言うので、その勢い?で、これも何となく山頂まで登ることとなつた。

ブレートのある岩から二〇分ほどで大日岩の分岐に着くが、その途中で、かつて増富温泉に向かう道跡を見つめた。現在はほとんど使われておらず、登山道不明瞭注意の道標が立つていた。滑落死した戸沢はこの道を通り、あの沢に迷い込んだのかもしれない。しばらくそんな話をしながらその道を見つめる皆の目は、三十三年前のあの日、この道を急ぐ戸沢の後ろ姿を追いかけているようだつた。し

のつくように降る雨が、遠くを見つめる皆のほほを濡らした。「さあ、行くか。」誰かの声に促され、心の中で戸沢に別れを告げて、また五四のオッサンは歩き出すのだつた。

このあたりから、ところどころ急な傾斜と岩場も多くなり、なかなかペースが上がらない。歩いていると、小学校の高学年くらいの女の子二人を含む四人家族が休んでいるところに出くわした。子供たちも今風の洒落た登山着姿で、将来はきっと立派な山ガールになるのだろうと密かに確信する。休んでいる家族を追い越しながら、「二人ともすごいねえ。オジサンもうヘトヘトだよ。」と子供達にやさしく話しかけるが、彼女らは少しおびえた

ように隣の親を見るのだつた。おそらく、あやしいオッサンに声をかけられたらすぐ逃げろと親や学校から教えられているに違いない。登山家に悪いヤツはいないのだニヤロメ、と心中で毒づきながら、子供たちは笑顔を見せるあやしいオッサン登山家であつた。

駐車場を出発して四時間過ぎ、十時頃にようやく稜線に出る。時々見晴らしの良いところがあるが、相変わらず厚い雲に覆われて展望がきかない。十一時を過ぎて、そろそろ頂上かと思うとまた下つたりする。さすがに足が疲れてきた。前を行く山下も足取りが重い。森林限界を超えてハイマツ林の道を淡々と歩いていると、少しばかり雲が切れ、雨も小ぶりになつてきた。いくつか小ピーコクを過ぎ、いよいよヘロヘロになりかけた時、眼前

にまたひと際大きな岩が現れた。おお、どうやらここが頂上らしい。

その岩をまくように登り切ったところが広場のようになつており、そこが金峰山の頂上であつた。到着時刻は十一時二十五分で、四時間三五分かかっての登頂だつた。その広場のような山頂の左右には大きな岩場があり、右側の岩場の下には、人一人がくぐれるほどの赤い小さな鳥居が立つていて。左側の岩場のてつべんが本当のピークで、そこに登つて写真を撮つたりする。その岩場の下あたりに金峰山山頂の道標があり、その前で記念旗を持つて全員で記念写真を撮る。これで今日の本当の目的が達せられたわけである。

鳥居の近くで昼食をとることにした。藤原がザックからコンロとコップヘルを取り出し、インスタントのシジミ汁を作つて各自にふるまつてくれた。少し冷えた身体に温かい味噌汁がありがたい。山頂には先ほどそれ違つた家族の他に、若者の男女数人のグループもあり、ワイワイと何か楽しそうである。少しバテ氣味のオッサンたちの目には、その若さが少しまぶしくて妬ましい。

山頂で五十分ほど休んだが天気の回復は望めそうもなく、十二時一五分頃下山を始める。下山は足にかかる負担が大きく、下るたびに膝がガクガクする。山下もかなり辛いようで、時折足がとまる。聞くと、どうも足の裏がつり気味だとか。他の三人はけつこう山を登つてている成果かスイスイ?と下つていくように

見える。いやはや、山はやっぱり男の修練場、いや、苦行なのである。

少し道の平らなところで一服すると、藤原がアミノバイタルとかいう粉末の健康食品をくれた。飲むと力が出るという話を信じて飲む。甘い味が口いっぱいに広がつた。何となく力がわいたようなそうでもないような。藤原のやさしさをもらつてまた下り始める。

下り始めて一時間も経たない頃、いつの間にか雨も上がり、周りを見渡すと少しずつ雲が切れ始めたことに気がついた。ちょうど稜線上の見晴らしの良いところに出たので、そこで少し休むことにした。後ろを見ると、先ほどまでいた山頂も見え始めた。白いカーテンが取り払われていくように周りの景色が鮮明になつていく様子は、まるで映画のワンシーンを見ているようだつた。先ほどまでの山頂やその直下の山小屋がはつきりと見え、目の前には瑞牆山の岩稜が一望にできた。遠くを見ると、浅間山と思しき山容までがくつきりと見える。それは大きさではなく奇跡のひと時であつた。皆歓声を上げて写真を撮り始める。登つて良かつた。

下を見ると、かなり遠くの稜線上ではあるが、なかなかペースがあがらない。小屋を出て三十分も過ぎた頃、下に駐車場らしきものが木の間からチラチラ見え始めてホツとす。全員が無事に駐車場に到着したのは十六時二十五分であつた。全行程十時間十五分かかつての金峰山登山で、おそらく今日の企画で一番大変な登山だらうと思われた。

駐車場に着くと、着替えも早々に宿に急ぐ。

今日の宿は、永井が予約してくれた増富温泉のひなびた旅館であつた。部屋は二部屋あり、喫煙者の山下と永井がひとつ部屋で寝ることにして、もうひとつ部屋を宴会用に使い、あの三人はそこで寝ることとした。

十分ほど景色を堪能したが、いつまでも感激に浸つてゐるわけにもいかないのでまた下

り始める。少し下ると、またすぐにガスに包まれてしまつた。ここからまた淡々と下るしかない。山は登つたら下らなければならぬ。あたりまえだがこれがつらいのである。

「エスカレーターとかエレベーターとかあれば楽だよなあ。」

「ドランモンのどこでもドアで帰りたい。」

「眠い……。」

などと小学生並みの愚痴を言いながら下る。

ヘトヘトになりながら富士見平小屋に着いたのは一五時三〇分で、山頂から三時間以上が経つていて。ここで水がなくなり、水場まで汲みに行こうとするが、かなり下であることがわかつて途中で断念する。そんな自分が情けない。

とにかくもう少しなので先を急ぐことにするが、なかなかペースがあがらない。小屋を出て三十分も過ぎた頃、下に駐車場らしきものが木の間からチラチラ見え始めてホツとする。全員が無事に駐車場に到着したのは十六時二十五分であつた。全行程十時間十五分かかつての金峰山登山で、おそらく今日の企画で一番大変な登山だらうと思われた。

駐車場に着くと、着替えも早々に宿に急ぐ。今日の宿は、永井が予約してくれた増富温泉のひなびた旅館であつた。部屋は二部屋あり、喫煙者の山下と永井がひとつ部屋で寝ることにして、もうひとつ部屋を宴会用に使い、あの三人はそこで寝ることとした。

増富温泉の湯は茶色で、ラジウム鉱泉のた

め湯の温度は低い。その温水プールのような冷泉に入り、今日の疲れを癒した。その後は広い宴会場で食事となるが、皆、疲れたせいか意気があがらない。食事も早々に宴会用の部屋に戻り、あれこれと雑談しながらまた酒を飲む。

せつかくの温泉なのに一度だけではもったいないので途中で風呂に行き、部屋に戻つてみると永井が大の字になつて高イビキをかいていた。起こすのも面倒なのでほうつておいたら次第にそれは爆音に変わり、さすがにたまらないので佐藤と二人で起こして隣の部屋に移動させた。後で聞いたところでは、あまり眠いので生命維持装置を装着し忘れたそうだ。山下は隣でよく眠れたものである。時計を見るとまだ九時を回つたばかりではあつたが寝ることにした。オツサンたちの夜は年とともに短くなるようだ。いつの間にか外は大雨が降つていて、心がついた。

こうして五四のオツサン登山隊は深い眠りにつき、また次の山を目指すのである。

カスケード山・カナダ

BN
676 野島一雄（昭和四十四年商）

七月十六日からの娘一家とのカナダ旅行に合わせて、創部八十周年記念ワンドリーリングとしてカスケード山（二九九八M）に登つて來た。カスケード山は、バンフの町から北方面

に目を向けるとその雄姿を見ることが出来る、町のシンボルである。

七月二十日六時バンフのロッジから娘と孫二人を置いて娘婿の田邊啓太君と車で出発、途中啓太君の友人のカナダ人のアイバン君と待ち合わせて登山口のマウントノーケイスキー場に向かう。

七時スキーロッジのリフト乗り場の先から林道に入る。カナダでは乗馬によるトレックингも盛んで林道には馬の落し物があり踏みつけないよう注意しなければならない。

林道をやや下りきつた所で立派な橋を渡つた所が今日の最低部一五八〇M、いよいよこれからひたすら山頂を目指して老体に鞭打つて登るのみである。ジグザグの登りが一段落

するとカスケードアムフィシアターと呼ばれる亜熱帯草原（二一二五M）に到着、遙か彼方に山頂が見えて来た。ここから森林限界を超える不安定な岩場に入る。例えるなら夏山の穂高のような感じだが、国内では見たことの無いほどの広大で急斜面のガレ場で目

印は僅かにあるケルンのみで、日本の山のように岩にベンキでべたべたと示していないのでルートを外さないよう細心の注意が必要である。岩場に足を取られザレ場では足を滑らせながら喘ぎ喘ぎ山頂右手のピークに辿り着き、十二時三十分ついに山頂に立つことが出来た。山頂からはバンフの町やミネワカンカ湖、バンフを取り囲むランドル山（二九九四M）やキャッスル山（二七七六M）、氷河で

十七時無事下山、充実した長い、長い一日がやつと終わつた。

山に何ら興味の無かつたわたしが、何の因果か明大ワンドーフォーゲル部に入部して早五十年近く、気が付いたらこの歳まで細々と

削られた岩の連峰が幾重にもはるかに連なる絶景が登行の辛さを暫し癒してくれた。三人で記念撮影をし、長い下山を考えると気持ちが萎えるが、今の時期のカナダは夜十時頃まで明るいので景色を楽しみながら歩くことにした。



山と関わって来たからこそ娘婿の啓太君と一緒に緒の時間を共有することが出来た。小4の孫の優河も父親の影響で山に登り始めた。今回は体力的に無理ということで残念ながら一緒に登れなかつたが、機会があれば親子3代で是非力ナダの山に登りたい。

最後に、わたしを騙すように入部させた某先輩に改めて感謝申し上げます。

私とワンドーフォーゲル

BN 683 横手一男（昭和四十四年商）

私がワンドーフォーゲル部に関わりをもつて五〇年経ちました。部活動は先輩、後輩の縦の人間関係と同期の横の関係があり、その人間関係が人生を豊かにしてくれました。昭和四一年（一九六六）に入学してワンドーフォーゲル部に入部したら、私のクラスの担任の木下勇先生が部長を務めていました。先生はドイツ語授業の合間にワンドーフォーゲル部の活動を話され、自然の中で心身鍛錬の場があり素晴らしい活動ですと強調しておりました。監督は鈴木善次郎氏でした。その年は創部三十周年で東京タワーで記念行事が行われたそうです。上級生になり部活動の仕事も増えてきてOB名簿作成にあたり、木下先生宅へお伺いしてOBの動向を調べることになりました。緊張しながら先生のお話を聞きました。昭和四三年に手嶋健氏（昭和三二年度

卒）がコーチになりました。私の学生時代は当時、七〇年安保闘争で各大学の活動家が運動を起こしていた。明治大学も紛争に巻き込まれ学園封鎖された。機動隊と学生運動家の対立があり、騒がしい時代でした。昭和四五年（一九七〇）に卒業して、同期からOB委員をだすことになりました。OB委員会は前川勤委員長が中心に監督、コーチ、OBが出席して行わされました。その頃は神保町の喫茶店「エレガンス」に集まりました。若輩の私も何回か出席しましたが、先輩の話を聞くだけでした。昭和四六年から昭和四八年は手嶋健氏が監督で学生を指導し、部長は藤井耕一先生でした。その後、昭和四九年に再び鈴木善次郎氏が監督になりました。OB委員会に監督が若手のコーチを推薦することになりました。吉沢利男OB（昭和四三年度）、横手一男OB（昭和四四年度）がなりました。最初のころは吉沢コーチが学生と一緒にワンドーナンスに参加していました。私は在京活動を指導していました。鈴木監督はリーダーシップについて常に話をされていました。

「一・安全の確認 二・危険予知 三・信頼を得ること。」昭和五〇年に創部四〇周年記念式典が新宿住友ビルで行われ多数のOBが参加しました。昭和五一年（一九七六）杉本主将の時に、六月の新人養成Wで不慮の事故が起きました。在京連絡所に連絡が入り、その日に部長、監督、コーチ、主将が日光へ入り市内の旭館を現地連絡所としました。警察

が昭和六一年（一九六六）一〇月に竣工され、OBによる大学の理事、地元の方々、多数のOB諸氏が式典に参加しました。十一月には創部五十周年記念式典が開催されました。昭和六二年より針生山荘は部員の活動の拠点になり、毎年リーダー養成Wの中継点でクビレ田代、花沼温原コースを通過して奥鬼怒山荘への路になりました。また、冬は、台鞍スキー場でスキーキ合宿を行い、四年生のお別れ会も針生山荘で行いました。平成四年、坂本部長が勇退し、長峰章先生が部長に就任しました。平成五年（一九九三）十月に奥鬼怒山荘三十周年記念を現地で開催しました。解散後、雪がちらちら降る天気でした。私は新村OB、小林碧OB、吉田修OBと一緒に鬼怒沼物見山へ大清水へと雪の中を歩き、下りは足元が滑りやすく、慎重に進みました。無事に大清水に到着して安心しました。平成六年、鈴木監督が勇退し、浜田稔コーチが監督に就任、コーチは井上堅一OB（平成元年度卒）、宮本裕剛OB（平成五年度卒）になりました。平成七年十月、日中慶明四大合同Wで谷川岳縦走コースにて日大パーティーの中で明治の堀井正君が滑落して死亡、青木淳君が重体になる事故がありました。日大のリーダー力量が欠落していたようです。OB会の事故対策委員会で部員の援助を決めていきました。十一月に茂倉新道の遭難現場で追悼Wが浜田監督、井上コーチ、吉岡主将代行、部員、私、日大の教職員と部員が参加して行われました。

十二月にOB幹事会が開催され、OBによる四大合W協議会が発足しました。平成八年九月に浜田監督が勇退し、横手一男OB（昭和四四年度卒）が監督に就任し、奥倉勇一OB（昭和三九年度卒）、大村研OB（平成三年度卒）がコーチになりました。浜田監督からの引継ぎ事項は安全ワンデルングの徹底と奥鬼怒山荘の屋根の点検でした。九月下旬にリーダー養成Wを行い、新体制で本多康弘主将以下八名の四年部員が部活動の中心になりました。十月十一～十三日谷川岳追悼Wを行い、追悼式を土樽の広場で堀井君の兄様、長峰部長、私、浜田前監督、大村コーチ、井上前コーチ、長沢前主将、一色雅男OB、若手OB6名、本多主将以下十六名の部員、日大教職員と部員、中央大監督が参加して行されました。十一月三日、堀井君の実家富山で一周忌が行われ、長峰部長、私、本多主将、卒業生六人、若手OB十二名、日大教職員と部員が参加しました。平成九年（一九九七）四月はリーダー会議で今後の部活動について話し合いをしました。安全の確保と同時に部員の減少により、三Kの見直しを検討し、ドームテントで軽量化、キスリングから縦長の一〇〇Lのザックで背負いやすさを追求する、マキサイトの見直しを検討しました。新人部員の加入に力を入れてOB会に援助をお願いしました。新人十名が入部しました。夏合宿は東北十和田湖で部員十七名が集いOB十五名が参加されました。十月に新体制ですが、三年生が欠落し

ていますので井上博雄主将代行という形で一年間活動することにしました。十月はMWV創部六十周年記念式典が大学会館で開催され、大勢のOB諸兄が参加しました。平成十年（一九九八）一月にOB幹事会が行われOB機構改革委員会、山小屋委員会が設置され、部の継続を図るために新人募集の勧誘方法に工夫をする。新人歓迎Wでバスツアーを取り入れてOB会の援助をお願いしました。大学一号館が取り壊しでリバティタワー完成後に十月部室が十号館（法学部校舎）に移動する予定です。私は四月から四年生不在なので部員とともに毎回ワンデルングに参加して三年生以下の育成に努めることにしました。四月新人歓迎Wで我が部の活動を知つてもらうため針生山荘で宿泊して奥日光Wを行う。夏合宿は九州開聞岳で行う。九月リーダー養成Wを行い奥鬼怒山荘に入荘すると台風の影響で雨漏りして畳が濡れていた。写真を撮つて体育課関課長に連絡をしました。屋根の吹き替え工事を依頼しました。十月に屋根の工事が具体的になり、私は体育課員一名、施設課員二名、東武建設株と一緒に山荘へ下調べに行きました。十一月は針生山荘の点検に体育課員一名と大桃建設工業で修理箇所を話し合いました。リバティタワー二三Fが竣工し、体育課関課長と会い山荘屋根修理の見積もりが一〇〇〇万円なので厳しい状況との事でした。再度調整してお願いしました。針生山荘は修繕予算がおりたので十二月に工事を進めるこ

とになりました。平成十一年四月新人募集を行い、三名が参加しました。山荘屋根修理で施設課員中山さんの話で五月中旬に業者指定することになる。六月施設課員中山さんと会う。手白沢温泉より山荘まで資材の運搬手伝いで延べ人数四十名の依頼があり、修理費用の削減に協力することになりました。七月中旬山さんより連絡があり、東武建設株が山荘修理を請け負うことになりました。改裝工事工程表が送られて八月二五日～二七日に資材運搬となりました。手白沢温泉九時集合で五時まで行う。その前に夏合宿が北海道日高アポイ岳で行われました。

その二

平成十一年八月の奥鬼怒山荘の大改装に関して部の要望として煙の処置をしてほしいことを東武建設の方と相談する。善後策をいろいろ検討した結果、換気扇では発電機の電力では不足となり、鳩小屋作成で上に煙を追いでいく方法を採用した。毎年の防腐剤塗装メンテナンスと三十数年も木造建築で耐用できたのは壁が燻製状態で木が持ちこたえられると、東武建設の方が話していた。部員の資材運搬に関してOB会より交通費等の援助をお願いしました。八月二十五日に井上主将他部員十三名が参加しました。長峰部長、奥倉コーチ、昭和三八年度卒OB鈴木康、前田、中村、管野、高橋寿、各OB、杉山（昭和四五年度卒）、諫訪本（昭和四九年

度卒）井上（平成元年卒）各OBが参加しました。資材は手白沢温泉から山荘まで運搬する。二十六日も行われた。山荘の水場を点検して、源頭に行き水道管を調整して水が貫通する。その後、施設課員中山さんより連絡がありまして九月十九日に検査が完了したと報告がありました。改修工事の図面をOB事務局、鹿島（昭和三七年度卒）、前田、杉山各OBに送付しました。九月に南会津でリーダー養成Wを行いました。新主将に北島健で四年生五名の執行部になる。十月十七日に鳩小屋に梯子を設置しに行きました。平成十二年（二〇〇〇）四月新人募集に力を入れる。歓迎コンパには十二名が来たが、歓迎Wには二名の参加でした。その後三名入部した。今年も少人数のなかでの活動となる。夏合宿は北島主将で東北地方田沢湖BCで行われました。小笠原（昭和四三年度卒）、村木（昭和五三年度卒）、清水晴（平成二年卒）弘美（平成五年度卒）、長谷（平成六年度卒）各OBが参加しました。九月に南会津でリーダー養成Wを行いました。新主将に高嶋章生で四年生三名の執行部になる。平成十三年（二〇〇一）四月、四年生とともに新人募集の方を検討する。新人歓迎Wに三名参加しました。五月に坂本清元MWV部長先生が勲三等旭日中授章を授与されました。その後、六月二十三日ホテルグランパレスにおいて坂本清先生の叙勲祝賀会が大勢のOB諸兄が参加して行われました。平成十六年四月、末永主将以下四年生三名で新人募集の方法を検討する。

度卒）井上（平成元年卒）各OBが参加しました。曾我、小野（昭和三九年度卒）、山本忍（昭和四二年度卒）、行村（昭和五六年度卒）、繁谷（昭和五七年度卒）、野中（昭和五八年度卒）、高取、松尾（昭和六一年度卒）、相川、兼広克、佐々木（昭和六二年度卒）、寺田（平成九年度卒）、井上（平成十一年度卒）、中村宏（平成十二年卒）、各OBの多数の参加でにぎやかになりました。八月下旬に南会津でリーダー養成Wが三年生一人で四年生二人と私が参加して行われた。厳しい状況の部活動であります。平成十四年四月、川井主将と部員で新人募集の方法を検討する。新人三名が入部してくる。夏合宿は中部地方で川井主将の願望でアルプスに登りたいとの事で比較的危険な場所がないコースを選択させた。BCは乗鞍高原休暇村キャンプ場で行いました。尾崎（平成八年度卒）出浦、松川、川崎、（平成九年度卒）、中村（平成十二年卒）各OBが参加しました。平成十五年四月、磯野主将以下四年生四名で新人募集の方法を検討する。新人五名入部してくる。八月夏合宿は東北地方白神山地十二湖で部員十五名の参加で行われました。八月下旬に南会津でリーダー養成Wを私と磯野主将、三年生二人で行いました。十月二十五日、前田OB（昭和三八年度卒）が実行委員長として奥鬼怒山荘四十周年記念式典が現地で多数のOB諸兄が参加して行われました。平成十六年四月、末永主将以下四年生三名で新人募集の方法を検討する。

募集時に、のぼり旗四本、旗四本、台二台を購入して校庭内に立てて目立つようにする。その費用を〇B会に援助してもらう。四月下旬新人歓迎Wを飯能巾着田の河原で新入生十名が参加して飯盒炊爨を行いました。みんな興味を持つて見守っていました。今年の一年生は定着しそうな予感がしました。八月夏合宿は九州えびの高原で行されました。〇B会長大内善一氏（昭和三一年度卒）はじめ中村茂（昭和五三年度卒）、長谷（平成六年度卒）尾崎（平成八年度卒）出浦、松川（平成九年度卒）、藤代（平成十三年度卒）、磯野（平成十五年度卒）各〇Bが参加しました。八月末から九月に南会津でリーダー養成Wを私と永主将、三年生三人で行いました。平成十七年度の執行部、伊藤主将と岩戸主務、リーダー三内を決めました。十月に私は監督を勇退して、奥倉コーチが監督に就任しました。長い間、ワンドーフォーゲル部活動に関わり大学関係者や部長先生、鈴木善次郎監督、手嶋監督をはじめ多くの〇B諸兄に叱咤激励をいただき感謝しております。コーチ時代は鈴木監督の真摯な指導を受け、得難い経験をしました。監督拝命した時は、まず安全性の確保と危険の予知、信頼されるリーダーの育成、リーダーシップとフォローシップの確立を目指しました。在任中は事故なく安全性が確保できましたことがよかったです。ご声援ありがとうございました。

椎橋OBの千調

連続登山についての考察

BN
477
天野淑明（昭和三十七年商）

椎橋〇Bの千週連続登山は驚異的というより、常識の外にある。聞けば、そのために、冠婚葬祭はもとより、世間の付き合いは出来ない、というよりしない、そうである。

も行かなければならぬのは椎橋職人の宿命である。また、この他人にはどうでもいいような山ほど、標高はまずまずでも難路であり、道なき、やつかいな誰もいない山が多い。そしてスーパー仙人の「業」、「行」、「忍」の行く手には例外なく「老い」も待つてゐる。それでも行き尽くると、ここまで行かねばならない、つらい道である。

椎橋稔君

BN
501 前田芳弘（昭和三十八年商）

千週連続登山おめでとう

千週連続のためには病気にもかからないいや病気になつても内緒にするそうである。ここまでめりこむと、趣味の段階を超えて、いわば山のスーパーマン、椎橋君は今や立派なスーパー仙人であり、山の職人さんである。

山で飯を食う、山の職人たる、たとえばボツカ力も今では少なく、尾瀬で見かけるくらいであるが、私は、このボツカのおじさんや、山小屋で働く昔ながらの職人さんの、少し腰を落として歩く後姿は、なんとなく風情を感じて、敬意を払い、憧れでもある。

百、二百、三百名山、百高山、各県の百山、標高二千五百Mを越える山々、全国各地の駒ヶ岳、などなど求めれば求めるほど、いくら

山で飯を食う、山の職人たる、たとえばボツカ力も今では少なく、尾瀬で見かけるくらいであるが、私は、このボツカのおじさんや、山小屋で働く昔ながらの職人さんの、少し腰を落として歩く後姿は、なんとなく風情を感じて、敬意を払い、憧れでもある。

百、二百、三百名山、百高山、各県の百山、標高二千五百Mを越える山々、全国各地の駒ヶ岳、などなど求めれば求めほど、いくらでも山は出てくる。私たちには対象外の山へ

彼とは明治大学付属中学校・高等学校からずつと一緒です。この学校に生物を教える樋山というユニークな先生がいました。教科書に頼らず実験を主とした授業を行なつていてある時力エルの解剖をするから捕まえてこいと言われ、誰もが躊躇する中で樋橋君が20人45匹持参して先生に大いに感謝されたのを覚えています。この頃から自然に対する興味が芽生え、植物・昆虫のエキスパートになつたのではないかと思います。これだけでは偉業を成すには何か物足りないですね。

そう、彼は無類の頑固者なのです。MWVのOBが主体となって「空色山の会」を作り会員は約三十名いますが、現在その会長をしています。会員のため運転手を務めてくれま

すが、その際つい最近までナビを使わず道路地図を頼りに運転し、同乗者の意見に決して耳を傾けずよく道を間違えます。家庭でも奥さんの云う事は「馬耳東風」と受け流しています。

もうひとつ、無類の負けず嫌いなのです。やはり山道を運転中、若いライダー風の車に追い越されると剥きになつて追いかけます。

この並はずれた頑固さと負けず嫌いが偉業をなした最大原因だと思います。これからも老体に鞭うつて、自らの道を進み記録を更新するのを願っています。

空色椎橋会長との最初の山行

BN 705 杉山 裕（昭和四十五年文）

私の空色山の会初山行は一〇〇〇年七月の第二十八回飯豊連峰。当時会長は中村さん（四九六）で参加者は十一名。会の母体辰巳午の会が中心メンバーで五十台後半の元気盛りでした。椎橋現会長が毎週末連続登山を始めた数年だつたと思いますが、いまだに続いているとは誰も思い及ばなかつたことでしょう。

飯豊縦走は山中二泊、三日間共行動十一時間前後で下山後夜中には帰京という密度の濃いものでした。山中初日は切合小屋泊、団体登山とぶつかり二畳に十一人で寝ろと。小屋のテントを貸すというので早速男五人は外へ。

今週で連続登山は、何週目ですか
千四十五週かな、一年五十二週二十年で
千四十四週で、まる二十年。
今年でゆうと四十九週のワンデルングで、
登つた山が二百三十七山。
三百は息子と会津駒。
三百の時は、空色の会長になつたので自分
が行く山を選んで富士山を須走口から登つた。
四百が雲取山。
五百は丹沢蛭が岳で柴田先輩と諏訪本が來
てくれた。

六百は原点に帰るという事で、山に登る
きつかけとなつた明治中学一年の生物部で
蝶々を追つかけ乍ら登つた霧ヶ峰、ヒュツテ
ジャヴエルに泊まつた。

七百は天城山。

矢倉岳でインタビューしました

今週で連続登山は、何週目ですか

千四十五週かな、一年五十二週二十年で
千四十四週で、まる二十年。
今年でゆうと四十九週のワンデルングで、
登つた山が二百三十七山。
三百は息子と会津駒。
三百の時は、空色の会長になつたので自分
が行く山を選んで富士山を須走口から登つた。
四百が雲取山。

五百は丹沢蛭が岳で柴田先輩と諏訪本が來
てくれた。

名山の記録は

最初に仕事から山に復活したとき、神奈川県の山とか、東京都の山とか、埼玉県の山とか、雑誌を買ってやつつけたんだよ。そのうち関東百名山があることを知つて、甲信越百名山をやつた時、同期で百名山をやつた人がいて、対抗して、百高山、山梨百名山、群馬、栃木百名山、静岡百名山、今は信州百名山で九十八山かな。

困難はどんなことですか
やはり怪我だね

群馬百名山を狙つていて、谷川の阿能川岳、夏道がないから残雪期に行つて、スノウシューで快適に歩いたというインターネットの記事を見て。

ところが斜面で、夜中には皆入口付近に転がり集まり、小屋と同じような状態で寝ていきました。二日目本山を越え花畑の縦走でしたが、事前問合せと違ひ残雪が多く先行パーティーの滑落行方不明事件あり、梅花皮小屋手前では強風におられた短パンのNさんが右の深さ二M程のクリークに姿を消したり、何人かはザックカバーを飛ばされたりと話題の多い

事前問合せと違ひ残雪が多く先行パーティーの滑落行方不明事件あり、梅花皮小屋手前では強風におられた短パンのNさんが右の深さ二M程のクリークに姿を消したり、何人かはザックカバーを飛ばされたりと話題の多い

千回は二十六年十二月、皆がもう一度美ヶ原といでので、王ヶ頭ホテルに泊まつた。

千二百で一周するので、そこまではやろうと、頑張つていただきたいと思います。

週末連続登山を始めるきっかけは

以前は晴れた日しか登らなかつたけど、空色山の会の前会長中村（好一）が花の写真の講習をやつて、雨でも露に濡れた花を撮れるなどハマッて、毎週登るようになつた。

八百は美ヶ原。

九百は丹沢山で俺と杉山と鈴木君の三人だけだつた。

トップを歩いてたら、後で人の気配を感じて。

それいけと、スノウシュートで下つたら、自分で自分の足を踏んで、でんぐり返しして肩を雪に突つ込んで脱臼してザックが担げなくなつて。

しようがないからザックをおいて、後二十分位だつたから頂上へは行つて来ましたよ。

帰りに山岳会の何人かはへりを呼びなさいと言つてくれたけど、みつともないのでいたどいつたらみんなで分担して、下まで荷物を持ってくれて。家まで水上から、片手で運転し、痛くてサービスエリアごと休んで、家の近くの済生会病院に行つて、やつと肩を入れてもらつたけど、完全に入つていなくて、まだおかしいけどね。

ご家族は怒りませんか

怒つているだろうね。だけどそんなにはね。披露宴を二回ぐらいすつぽかした事はあるけど。

今後の目標は?

下らないけどイチローが年二百本、俺は二百本。イチローの百本が二十一年間で今年切れたんだけど、俺は百本、十七年で、それを何とか。イチローに勝。

一番怖い思いは

関東百名山の白毛門近く、宝川温泉から朝

日岳に登つている時で、上は湿地で、雨が降つて道も間違えたんだけど、すべて転んだら、スウーと体が動いて、思わず灌木に捉まつて、下を見たら断崖絶壁で間一髪助かつた。今でも時々夢を見てうなされるよ。

あと熊に今まで三回ぐらい会つていて、大抵は向こうが逃げていくんだけど。

丹後山に一人でいつた時、麓では怖いからラジオを鳴らしたり、鈴を着けたりして歩いて、尾根上になつたら笠原で、こんな処に食料もないのに熊もいないだろうと、ゆっくり歩いていたら、下で吠えているんだよ。見たら熊が立ちあがつていてね、俺もでかく見せようとウオーと叫んだら逃げて行つたよ。

二十四日 四時前に出発して蓮華温泉へ。五時半過ぎに大池方面へ歩き出す。予想通り雨模様で、白馬大池までの三時間は我慢の登りであった。休憩する時、雨のせいか私一人を除いてザックを下ろさず、五分も休もうとしないのは頼もしいが何かうつとうしい（煙草もゆっくり吸えない）。途中の天狗の庭などで早くもイブキジャコウソウなどの高山植物がたくさん顔を見せてくれたのが救いであつた。大きな岩の多い道が長く続くところを抜けると、さすがに足が上がらなくなつて苦しい。寄る年波か！？

なため会の皆さんへのメッセージは今日は吉田先輩がきているけど、なんだかんだ俺が一番上で、もつと上の先輩に頑張つてほしいよ。

北アルプス～白馬・雪倉・朝日～高山植物の宝庫を巡る

BN 775 小田野義之（昭和五十年政経）

七月二十三日夕刻、豊田駅からOGの車で出発。今回は店の売り出しがあって参加できないMがいないので、車は四人でゆつたり座る。今日はガスがかかるつている。いよいよ稜線歩きになると「坂の上の雲」の白い道がくねくねと見え始めるが、おそらく風が強い。予想以上に早く小蓮華山に到着。その先の稜線で子連れの雷鳥に遭遇。我々の注視する中、稜線を横断していった。白馬岳の最後の登りも我慢の一本だつた。少し遅

れがちのTがいて助かつたくらいだつた。山頂に着くといよいよ風が強く、せつかくの眺望も雲の中なので早々に山荘へ向かう。白馬山荘は空いていて、食堂も人が少ない。大雪渓が通行止めになつてたらしい。ビールを飲んで、我々だけの個室状態の部屋でひと休み。夕刻もすつきり晴れず、夕食後は早々と寝入つてしまつた。

二十五日 翌朝もすつきりしない空で、白馬山頂も雲の中でひときわ風が強い。三国境に下つてくるに従つて晴れてきて、雪倉への稜線が素晴らしい。日差しは強くなつたが、強風のために暑くはない。高山植物はさすがに種類、量とも非常に多く、私は有頂天だが、他の三人の反応は少ない。私が花の名前を教えても、フフンとそつけない。もう花の名前は覚えられないしね。私は先頭をHに譲つて写真を撮りまくる。

雪倉岳山頂では八十周年記念の旗とともに記念撮影。相変わらず強い風で、Hが旗を体に巻いたまま撮る。

雪倉岳を下り切つた鞍部からの巻き道は木道もある湿原が何ヶ所かあり、水芭蕉やリュウキンカが可愛らしい。朝日小屋へは水平道を行こうとみんなと途中で決めていたが、なんと通行禁止のロープが張つてある。明朝登る朝日岳へ今日登つて下るのもシンドイので私の独断で强行突破。確かに雪渓が多く、難儀なところもあつた。それよりも名前が水平のくせに上り下りがとても多く長い道で、朝

日岳へ登るのとたいした差はないかもしない。水平道が終わつて合流すると、朝日小屋が目の前に迫るが、緩斜面とはいえ水平道で渓が通行止めになつてたらしい。朝日平は夢のような平地で朝日小屋の女性オーナーは好感度高く、夕食も美味かつた。

二十六日 三日目の朝は弁当を持つて、

ヘッドランプを点けて三時半出発。朝日岳から朝日を眺めよつという魂胆。山頂に着くと既に空が赤みを帯びてモルゲンロートが始まつてた。長い時間、その優美な眺めを堪能してから下山に入る。朝日小屋で同室だつた人の情報では雪渓が何ヶ所かあり、かなり急傾斜で怖いところもあると聞いていたが、アイゼンも一度つけただけで全く問題なく通過した（先行していた単独行者はだいぶ苦労していたが……）。五輪の森に入つたあたりの展望台は素晴らしい眺めだつた。五輪尾根は長くだらだらと続くが、五輪高原と称された湿原のさわやかさは見事で、キンコウカがやたら咲いていた。高度も下がつてヒナタは風がないと暑苦しいが、川をふたつの立派な橋で渡り、湿原の兵馬ノ平に入ると一時間弱で蓮華温泉に到着。三日振りの湯は気持ちがいい。炭酸飲料を一気飲みして帰途に就く。しかし最後は事故渋滞に巻き込まれ散々だつた。

今回私が確認できた高山植物は百二〇種類だつた。この広域において種類と密度では日本随一と私は疑わない。また行きたいが行けるだろうか……、疑わしい。

（情断会夏季ワンデルング）

二〇一五年十一月

草津訪問記（末代 草津白根山荘係）

BN 1017 山口直樹（昭和六十一年文）

「一九五四（昭和二十九）年に、明治大学ワンダーフォーゲル部が草津白根（群馬県）に山小屋を建設した。わが国において史上初のワンダーフォーゲル部独自の山小屋であつた。在来の山岳部の山小屋とは別個に建設されたことは、大学ワンダーフォーゲル部の発展の証しを登山史の上に刻んだ画期的な事業であつた。」（城島紀夫著「ワンダーフォーゲル活動のあゆみ（古今書院）より抜粋）

顧みるに、今から三十年前の一九八五年、私は最後の草津白根山荘係に任命された折、「今まで先輩方や関係者の方々が培われた草津町の方々と絆をより深いものにして、翌年、取り壊されるまで精一杯努めさせてもらおう」と心に誓つたことを思い出す。それにして、あの草津白根山荘が、わが国の大學生のワンダーフォーゲル部の歴史の中で、大きな存在であつたことは、恥ずかしながら先日、住田先輩に薦めていた城島さんの著書を読むまで知らなかつた。

卒業後、草津には数回訪れ、山田荘に泊めていたり、現役時代、スキー合宿で

コーチをしていただいたレストランガーデンマスターの小林勲さんとお酒をいっしょにいただいたりしたが、二〇〇四年十二月末、妻と二歳位になつた倅を連れ、スキー場で雪遊びをして、お世話になつた方々へのご挨拶で草津を訪れて以来、十年以上ご無沙汰していました。前回訪れた折は、民宿山田荘を訪ね、山田宮太郎さん、文雄さん親子が、既に鬼籍に入りされていることを知つたが、宮太郎さんの奥様はまだご健在で、現役時代散々お世話になつたお礼を申し上げ、鈴木善次郎さんが、一九九八年に亡くなられたことをお話しするなど、感慨深い表情で聴いておられた。久々に奥様とお話できて私も懐かしさと嬉しさで目頭が熱くなつたのをハッキリ覚えている。とても温和な表情をされていた。山田荘は文雄さんの妹さん一家が、切り盛りしているようで、私の現役時代、少年だった妹さんのお子さんも立派な青年に成長し、微笑みをうかべながら、居間で一緒にお話を聞いて下さつていた。レストランガーデンも訪ね、小林さんご夫妻にご挨拶した。

以来十余年、今年、創部八十周年を迎えるにあたり、草津を再訪問し草津白根山荘の建設・維持管理に甚だご尽力をいただいた山田宮太郎さん、文雄さん親子の墓参をしようとした、夏頃に計画を立てたが、私の先代草津白根山荘係である駒場智行さんとのスケジュールが合わずに、先日十一月三日に日帰りで

やつと実現できる運びとなつた。

七時二十九分大宮駅集合後、高崎駅・長野原草津口駅経由で列車とバスを利用し十一時

十分草津温泉着。民宿「山田荘」を訪ねると、宮太郎さんの娘さんご夫妻がお客様をお見送りされたところで、我々を暖かく出迎えて

下さつた。いろいろお話を伺つてあるうちに、数年前に宮太郎さんの奥様が亡くなられたこと、文雄さんのご長男、政之さんも、十年位前、

三十代半ば海外旅行中、パキスタンで心筋梗塞が原因で亡くなられたとのことなどを伺つた。昼すぎに、娘さんご夫婦と共に山田宮太郎さんご夫妻、文雄さん、政之さんのお墓参りをし、墓前に今年、創部八十周年を迎えたことを報告した。その後、湯畠付近のそば屋、三國家さんで昼食を済ませ、十四時頃

レストランガーデンを訪問した。お客様がお

らず、マスターご夫妻がコーヒーや手作りのリーフパイでもてなして下さり、駒場さんや私の仕事の内容などを熱心に聴いて下さつた。

十五時三十分白旗の湯（湯畠隣の共同浴場）に入浴し、充分に草津温泉を堪能した。

十六時四十分草津温泉発 長野原草津口・

高崎駅経由で二十時三十五分大宮駅解散となる。

当日は、好天に恵まれ紅葉も美しかつた。帰る折、草津温泉バス停に山田さんご夫妻がいらして手土産までいただく。帰りの列車の中では、駒場さんと、ハイボール片手に反省

会＆小宴会をして盛り上がつた。

未筆ではあるが、今後の草津町の益々の発展をお祈りすると共に、お世話になつた皆様方に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

W V 三六会の近況報告

BN 425 長井吾一（昭和三十六年政経）

前略 梅雨の季節ですが、連日三十度を越す真夏日が続いていますが、諸兄お変わりなく元気にお過ごしのことと拝察申し上げます。

同期の主将・主務等七名が他界した関係で同期会は十年間休会しておりました。平成二十二年久し振りに小川町の紫紺館で同期会を開催し、MWV三六会と名付け、以後、平成二十四年思い出の地草津温泉、平成二十六年鶴温泉、そして平成二十七年震災の影響を受けている〈がんばつべ〉福島・高湯温泉にて開催しました。

高湯温泉旅館玉子湯の社長後藤省一はMWVに二年間在籍しており夜の宴会に同席して旧交を温めました。

我々後期高齢者の年代になつたせいか、体調不良者が多く参加者は十一名でしたが、学生時代に戻つて楽しい一夜を過ごすことができました。

■平成二十八年 なため会ワンデルング日程

五月二十一日(土) 陣馬山一般、健脚コース

八月二十七日(土) 谷川岳前回雨のリベンジ

平成二十八年秋 針生山荘エリア一泊

山荘三十周年にあわせて
冬の富士の展望
三ツ峠 六〇回記念、

由水 雅也
会計、4班PL、気象・手白小屋係チーフ
文学部文学科
出身地: 神奈川県
神奈川総合高等学校

近藤 謙生
3班PL、針生・無線係チーフ
農学部農学科
出身地: 神奈川県
神奈川大学付属高等学校

佐藤 光時
4班SL、衛生係チーフ
理工学部情報科学科
出身地: 神奈川県
桜丘高等学校

濱田 稔
携帯080-14730-18594
*お問い合わせ 企画振興部

二月四日(土)



〔新執行部紹介〕



由水 雅也
会計、4班PL、気象・手白小屋係チーフ
文学部文学科
出身地: 神奈川県
神奈川総合高等学校



永田 真帆
主務、記録係チーフ、2班
政治経済学部政治学科
出身地: 神奈川県
横浜雙葉高等学校



松田 彩友美
主将、手白小屋係チーフ、3班
農学部農学科
出身地: 東京都
国立高等学校



近藤 謙生
3班PL、針生・無線係チーフ
農学部農学科
出身地: 神奈川県
神奈川大学付属高等学校



今井 悠貴
2班PL、装備・トレーニング係チーフ
文学部史学地理学科
出身地: 群馬県
高崎高等学校



池田 将太
1班PL、情報・編集係チーフ
理工学部情報科学科
出身地: 千葉県
八千代松蔭高等学校



佐藤 光時
4班SL、衛生係チーフ
理工学部情報科学科
出身地: 神奈川県
桜丘高等学校



高橋 辰之介
1班SL、装備係チーフ
法学部法律学科
出身地: 宮城県
東北学院高等学校



神内 亜実
1班SL、針生・編集・写真係チーフ
文学部史学地理学科
出身地: 神奈川県
神奈川総合高等学校

創部 80 周年 おめでとうございます

昭和 38 年度卒業

辰巳午の会

創部 80 周年 おめでとうございます

昭和 46 年度卒業

713 増田 康利

717 住田 孔一

714 南出 進

718 安部 秀樹

715 小林 雪夫

719 鈴木 幸代(橋本)

716 篠 吉重

720 大川 久枝 (中)

創部 80 周年 おめでとうございます

昭和 49 年度卒業

749 並木 勝弥

754 伊田 和雄

751 諏訪本充弘

755 黒尾 良一

752 竹内 宏

756 小山まさみ(中里)

753 小松 宏之

創部 80 周年 おめでとうございます！



昭和53年度卒業 五三会

創部 80 周年
おめでとうございます

三協印刷株式会社

〒152-0002 東京都目黒区目黒本町5-20-7
TEL: 03-3793-5971 FAX: 03-3793-6242
E-Mail: main@sankyo-print.com

創部 80 周年 おめでとうございます。



昭和 39 年度卒業 山久会

祝 創部 80 周年

スポーツウェアーエンジニアリング イワモト

岩本 雅之

〒130-0014

東京都墨田区亀沢1丁目27-9

TEL: 03-3625-3836

FAX: 03-3625-3863

携帯: 090-3047-4044

E-Mail: daily_iwamoto@yahoo.co.jp

60年のあゆみ以降の年表

創部	西暦	元号	部長	監督	OB会長	C & M	部員数	部の変遷		社会面
								記念館取り壊し 四大合W事故により自主休部、事故対策募金活動実施 11月 第九回OB大会箱根甲子園で開催 新田功先生部長代理就任（長峰部長イギリス研修の為）	6月 藤井耕一元部長死去 10月 創部60年記念式典、「60年のあゆみ」発刊 BNO683横手一男監督就任	
61	1996	平成 8年	長峰章	濱田 稔	新村貞男	長沢義明 尾崎剛史	32			ドジャース野茂英雄投手ノーヒットノーラン達成
62	1997	平成 9年	長峰章	横手一男	新村貞男	本田康弘 出浦裕二	25			東京アクアライン開通
63	1998	平成 10年	長峰章	横手一男	小林碧	井上博雄 川村時生	13	2月 鈴木善次郎元監督死去 9月 OB会機構改革実施 9月 明治大学リバティタワー一期工事完成		長野冬季オリンピック開催 (金5・銀1・銅4)
64	1999	平成 11年	長峰章	横手一男	小林碧	井上博雄 川村時生	15	6月 企画委員会第1回W(大山) 8・9月 奥鬼怒山荘改修 MWV公式ホームページ開設		東海村核燃料工場で国内初の臨界事故
65	2000	平成 12年	長峰章	横手一男	高野栄三	北島 健 粟田俊介	15	11月 手嶋健元監督死去		三宅島噴火で全島避難
66	2001	平成 13年	長峰章	横手一男	高野栄三	高嶋章生 岸田彰二郎	15	6月 坂本清元部長叙勲を祝う会		アメリカ 同時多発テロ事件
67	2002	平成 14年	長峰章	横手一男	高野栄三	川井智詞 林 勇樹	12	5月 BNO566松本栄作幹事長就任 10月 OB有志韓国雪岳山遠征		北朝鮮に拉致された日本人5人が帰国
68	2003	平成 15年	長峰章	横手一男	高野栄三	磯野真一 小長谷敏行	15	10月 奥鬼怒山荘40周年記念式典		イラク戦争勃発
69	2004	平成 16年	長峰章	横手一男	大内善一	末永正樹 生井智之	17	5月 BNO299大内善一OB会長就任 5月 BNO627和田満幹事長就任		新潟県中越地震
70	2005	平成 17年	長峰章	奥倉勇一	大内善一	伊藤雅俊 岩戸里香	25	BNO588奥倉勇一監督就任		耐震強度偽装事件発生
71	2006	平成 18年	長峰章	奥倉勇一	吉田修	川澄剛史 河野淳俊	15	3月 卒業生歓迎会開催 5月 BNO717住田孔一幹事長就任 10月 針生山荘20周年記念式典(針生山荘)		ライブドア事件発生
72	2007	平成 19年	長峰章	奥倉勇一	吉田修	渡邊 光 山上哲也	31			第一回東京マラソン開催
73	2008	平成 20年	長峰章	奥倉勇一	柴田常夫	杉山文啓 加藤洋一	21	5月 BNO381柴田常夫OB会長就任		世界同時不況(リーマンショック) 北京オリンピック
74	2009	平成 21年	長峰章	諫訪本充弘	柴田常夫	吉澤悠介 水野陽子	42	BNO751諫訪本充弘監督就任		
75	2010	平成 22年	長峰章	諫訪本充弘	柴田常夫	片貝友哉 山崎浩樹	39			小惑星探査機「はやぶさ」7年ぶり地球へ帰還
76	2011	平成 23年	長峰章	諫訪本充弘	天野做明	沓沢優子 大塚 覚	44	5月 BNO477天野做明OB会長就任 5月 BNO775小田野義之幹事長就任		東日本大震災 東京電力福島原原子力発電所事故
77	2012	平成 24年	長峰章	諫訪本充弘	天野做明	安田光輝 岩田卓也	32			2月 東京スカイツリー完成 (634m) ロンドンオリンピック
78	2013	平成 25年	長峰章	諫訪本充弘	天野做明	南 隼人 浜口小百合	35	10月 6日 奥鬼怒山荘50周年式典(奥鬼怒山荘) 12月 奥鬼怒山荘50周年記念祝賀会(リバティタワー)		アルジェリア人質拘束事件
79	2014	平成 26年	長峰章	諫訪本充弘	天野做明	諫訪部貴亮 鈴木優花	43	5月 BNO728横尾廣志幹事長就任 7月 BNO381柴田常夫元会長死去		9月 御嶽山噴火事故 10月 ノーベル物理学賞赤崎勇・中村修二・天野浩氏受賞
80	2015	平成 27年	長峰章	諫訪本充弘	鈴木正彦	舛田献太郎 野村啓悟	58	1月 薫風50号発行 1月 BNO209高野栄三元会長死去 5月 BNO532鈴木正彦OB会長就任 8月 10月 全国オールなため会ワンドルレング(15プラン) 12月 創部80周年記念祝賀会(紫紺館)		3月 北陸新幹線金沢延伸 10月 ノーベル生理学・医学賞大村智氏 物理学賞梶田隆章氏受賞